

序

本図書館は、著名な「弘前藩日記」を始め約 15,000 余点の古書及び絵図等を収蔵し、古資料図書館としても重きをなしてきた。

ところでこれ等の資料について近代的な目録を作成することは、館内外の永い間の念願であったが、漸くここに「軽軽古図書保存会文庫」(1,851 冊)の目録を作成することができた。これはほんの第一着手に過ぎないけれども、この図書館としては歴史的な仕事であり、一般利用者・研売家に対して果す奉仕的役目は大きいと思う。そこで、今後他の資料についても同じ「弘前図書館郷土資料目録」という名称とこの体裁で続刊していきたい。

なお、この文庫の内容概略については「凡例」の冒頭に、またその成立・経過については末尾の「附録」にそれぞれ附記しておいた。

昭和35年3月

弘前図書館長 山口寿

凡例（初版）

- 1 この「津軽古図書保存会文庫」の資料1,851冊は、外崎覚氏（附録5.略伝参照）が首唱し、旧弘前藩の重臣学識者の協力を得てひろく一般から集書し、また、旧藩主津軽家の文庫から古資料の寄附をうけなどしたものである。
- 1 本資料の概要は、諸家に所蔵された藩史その他の写本と、旧藩庁の勘定奉行の所管にかゝる古記録類が主として収められている。
- 1 本資料の大部分は弘前藩の郷土資料であるが、標題のみからは推知し得ない場合でも、特に註記のないものは弘前藩関係の資料である。
- 1 分類はおゝむね「日本十進分類法」によった。分類項目内の排列は、関係主題の年代順（古より新へ）または、書写出版年順としたが、利用上の便宜を考えて、同一主題のものを一括するようにつとめた。すなわち、場合により◇印を用いて区分し、または、暫定的項目をたてゝ排列した。年代不明のものは適宜後に配置した。
- 1 主題および内容が多岐にわたり、他の項目にも掲げるを妥当と考えられるものはその項へも複出した。
- 1 記載事項は標題（書名、編著者名）出版事項（出版地、出版者、出版年、書写年）対照事項（冊数、大きさ、装釘）註記事項（一般註記、内容細目等）の順になっている。書名はゴシック活字を用いた。
- 1 本資料はその大部分が筆写本であるが、筆写本を「写」と明記し、刊本は「刊」を省略した。
- 1 各図書の標題の右端の記号数字（例：甲3-318）は、その図書の請求記号である。
- 1 資料の形態については、半紙、半紙半（半紙半切）、半紙倍（半紙倍判）、美濃、美濃半、美濃倍、横長（横長帳）等の略称により、その概略の大きさを示すにとゞめ、洋装本の外はすべて和、折本、卷子、豊物、一枚物と明記し、それぞれ冊、帖、軸、鋪、枚を単位称呼とした。
- 1 当用漢字において、新旧両体のあるものは、本目録では新字体に統一した。
- 1 附録には、この文庫の成立や経過に関する事項を収めた。（*次段凡例参照・後註）

第2版（PDF版）凡例

- 1 初版作成当時、注記としてつけられた現在市町村の所属は、その後の市町村合併により変更になっている地域もあるが、今回はそのままとした。
- 1 分類索引はページとしてつけず、本目録の使用に当たってはAdobe Readerの検索機能を利用されるほか、画面左側のしおり、マークをクリックして索引を表示されたい。
- 1 附録は割愛した。

平成25年10月

*「附録」はこの第2版では省いた。

津軽古図書保存会文庫目録

100 哲学

148 相法 占い

慶応二年運氣晴雨考 地方 丙 7-99
写 1冊 半紙 仮和
註：「但七十式候之遍略す本紙郡所二有」とあり

159 家憲 家訓

黒田侯定則 黒田長政著 甲 3-28
写 1冊 半紙 仮和
註：黒田長政が元和8年(1622)に定めし家訓

160 宗教(寺社)

寺社領御新検元帳(貞享調) 御山方 甲 10-309
天保7(1836)写 1冊 半紙倍 仮和

寺社領御新検元帳(貞享調) 甲 11-236
明治3(1870)写 1冊 半紙 仮和
内容：浦町 横内 油川 後潟 浪岡 増館 飯詰 常盤 柏木

寺社領分限帳 正徳元年(1711) 乙 1-367
写 6冊(合本1冊)半紙 和

寺社知行分限帳 宝暦5年 甲 10-306
宝暦5(1755)写 1冊 半紙倍 仮和

寺社渡方御定帳 明和6年 甲 10-307
明和6(1769)写 1冊 美濃 仮和
註：宝暦9年(1759)10月御定の写と附箋あり

寺社渡方御定帳 安永3年 甲 10-308
安永3(1774)写 1冊 美濃 仮和

寺社知行分限 安永7年 甲 10-305
安永7(1778)写 1冊 美濃 仮和

御宮併御拜殿護摩堂御仮殿御寄附帳(上仙院様御代) 甲 11-332
弘化3年 薬王院
弘化(1846)写 1冊 半紙 仮和
註：弘化3年薬王院の書上にて東照宮及本堂等へ上仙院(津軽寧親)の寄附品帳

寺院社家臨時留 安政5年 御公務方 乙 1-364
安政5(1958)写 3冊 半紙 仮和

寺社奉行覚書 甲 7-183
写 1帖 小 折本
註：切支丹類族のこと 寺社除地反別高寄(貞享4年)及寺社の数

葎羽三島郡寺社除地高寄(証文有之併無証文) 甲 11-338
天和3年(1683)写 2冊 半紙 仮和
註：越後国葎羽郡 三島郡

175 神社 祭祀

猿賀山深沙大権現結文併藤崎毘沙門堂由来記抜萃 甲 11-328
写 1冊 半紙 仮和

神明宮社縁起 斎藤長門著 甲 4-54
元禄15(1702)写(原本)1冊 美濃 和
註：諏訪太明神 大秋堰神 藤先堰神をも附記す

勢州大々特割合帳 附天明元年太々神楽料割合上納書附留 乙 18-352
写 1冊 美濃 仮和

註：宝永5年(1708)～弘化2年(1845)間の伊勢太々神楽に関する一件及羽黒山延命院の件 領内寺社下昇遷宮の節の代料渡定及び天明元年～寛政2年間の太々神楽料割合留

社家 甲 11-323

寛政11(1799)写 1冊 半紙 仮和
註：寛政11年小野若狭 長利掃部 安部数馬がそれぞれ八幡宮 長浜村広瀬宮 熊野宮 山王宮 下居宮の御寄附品等を書上せるもの

護毅神御寄附御神器書上帳 文化元年(1804) 甲 11-325
写 1冊 半紙 仮和
註：神主山村要人書上

寺社一件 文化4年(横内村妙見宮) 甲 11-333
文化4(1807)写 1冊 半紙 仮和
註：妙見宮の再建並に祈禱料及祭事料渡一件

東照宮御神器覚牒 文政2年 御公務方 甲 11-327
文政2(1819)写 1冊 半紙 仮和

青森町社地割渡御検地仕上帳 文政12年 甲 11-337
文政12(1829)写 1冊 半紙 仮和
註：夷社地の割渡検地

当社〔熊野宮〕御寄附之品留 弘化4年 甲 11-330
弘化4(1847)写 1冊 半紙 仮和
註：弘化4年森下伊賀古来よりの寄附品書上

熊野宮御修覆留 甲 11-329
弘化4(1847)写 1冊 手紙 仮和
註：弘化4年森下伊賀古来よりの修復年月の書上

広田宮社地観音堂地境内林御検地仕上帳 乙 13-698

弘化4年 弘化4(1847)写 1冊 半紙 仮和		高岡御用留帳 享保2年 享保2(1717)写 1冊 半紙 仮和	甲 12-345	勘定所地方 写 1冊 半紙 和	
八幡宮供奉格例(八幡宮供奉勤方) 安政2(1855)写 1冊 半紙 仮和	甲 11-322	高岡御宝器御道具留帳 享保20年(1735)元文4年(1739) 延享3年 (1746)弘化3年(1846)万延元年(1860) 写 5冊(合本1冊)半紙 仮和	甲 11-313	高岡御神田御備粉御用留 天保5年(1834)至明治 勘定所地方 写 1冊 半紙 仮和	甲 12-356
八幡宮御祭礼帳 慶応3年 御公務方 慶応3(1867)写 1冊 半紙 仮和	甲 11-324	高岡大祭御規式帳 寛延4年 寛延4(1751)写 1冊 半紙 仮和	甲 10-300	高岡御神田御貯粉上納立合見届帳 天保5~明治4年(1834~1871) 地方 写 1冊 半紙 仮和	甲 12-355
豊富村豊崎宮社地境内林除地元帳 安政4年 安政4(1857)写 1冊 半紙半 仮和	丙 3-900	高岡御拜殿御造営二付諸色渡代金調帳 宝暦5年 宝暦5(1755)写 1冊 半紙 仮和	甲 11-312	高岡御大祭風廻御用留帳 万延元年 貴田孫太夫(同邦) 万延元(1860)写 1冊 半紙 和	甲 12-343
百沢御本社御屋根葺替二付御用留 1~6併御入用惣勘目録 文久元~元治2年(1861~1865) 写 7冊 半紙 和	乙 1-357	高岡二而五拾壹年御大祭二付諸色御入用調帳 宝暦10年 宝暦10(1760)写 1冊 半紙 仮和	甲 10-302	高岡御大祭御入用調 万延元年 万延元(1860)写 1冊 半紙 仮和	甲 12-342
岩木山神社縁起略諺解 下沢保躬編 弘前 編著 明治12(1879)1冊 半紙 和	甲 11-318	諸書付留牒(高岡七拾壹年御祭礼)安永9年 諸渡方 安永9(1780)写 1冊 半紙 仮和	乙 11-625	高岡御大祭諸色留帳 万延元年 諸渡方 万延元(1860)写 1冊 半紙 仮和	甲 12-344
招魂祭帳 明治2年 明治2(1869)写 1冊 半紙 仮和 註:宇和野 矢島 野辺地 箱館 青森における招魂祭 の経理関係書類	丙 5-927	高岡御金仕分ケ帳 寛政元年~昭治3年(1789~1870) 写 2冊 半紙半 仮和	甲 10-303	高岡御神田御収納併拝借分上納引入見届帳 昭治3年 明治3(1870)写 1冊 半紙 仮和	甲 12-352
〈高照神社〉					
高岡御宮御絵図 正徳4年(1714) 写 2舗 量物	丙 17-1211	高岡九拾壹年御大祭諸色渡帳 寛政12年 諸渡方 寛政12(1800)写 1冊 半紙 仮和	甲 10-301	高岡留帳 写 1冊 半紙 仮和 註:高照宮御神事式等の留帳	甲 11-311
高岡御祭礼御用一卷 享保元年~同4年 享保元(1716)~4 写 4冊(合本1冊)半紙 仮和	甲 10-296	高岡御神領田畑帳 文政8年 文政8(1825)写 1冊 半紙 仮和	甲 12-349	高岡御神領田畑高反別帳 写 1冊 半紙 和	甲 12-350
高岡御祭礼御用一卷 享保6年 享保6(1721)写 1冊 半紙 仮和	甲 10-295	高岡御宮御門前御給人併畑作人とも式拾壹軒江御神領金拝 借願壹件留 天保4年 天保4(1833)写 1冊 半紙 和	甲 12-353	[高岡御大祭諸渡方留帳] 写 1冊 半紙 仮和	乙 7-490
		高岡御神田御備粉御本帳 天保5~慶応3年(1834~ 1867)	甲 12-354		

高岡御祭礼御役人上下付帳 甲 7-209
写 1冊 横長 仮和

高岡御用申通之覚 甲 1-207
写 1冊 横長 仮和

高岡御用二付諸色渡方覚 甲 7-208
写 1冊 横長 仮和

185 寺院 僧職

御支配所四ヶ村百姓旦那寺判鑑帳 丙 3-895
元禄 5 年（津軽采女知行所之内）
元禄 5（1692）写 1冊 美濃 仮和

天台宗諸寺院縁起志 釈怨覚等 甲 4-53
元禄 14（1701）写（原本）1冊 美濃 和
註：薬王院（怨覚）報恩寺（翁存）神宮寺（凌海）袋宮寺（円須）の四ヶ寺相談の上詮議相調たるもの

知行高反別帳 丙 1-893
宝暦 7（1757）写 1冊 美濃 仮和
註：宝暦 7 年真教寺の高反別改の帳

五山書留帳 甲 11-340
写 1冊 半紙 仮和
註：五山書留帳とあれど 天台四山及真言五山の安永頃より安政頃までの諸渡帳にして 次項の「寺院諸渡帳」と合すべきものか 共に表紙は改装しあり（真言宗五山：最勝院 百沢寺 久渡寺 国上寺 橋雲寺天台宗四山：薬王院 報恩寺 神宮寺 袋宮寺）

寺院諸渡帳 甲 11-341
写 1冊 半紙 仮和
註：安永頃より慶応までの留帳 百沢寺 大行院 本行

寺 貞昌寺 真教寺 大円寺 高伯寺 白狐寺
寺院 最勝院本堂御寄附品之部 甲 11-326

寛政 11（1799）写 1冊 半紙
註：寛政 11 年の古来よりの寄附書上帳

陸奥国津軽郡村仮名附帳（長勝寺領） 乙 6-470
文化元（1804）写 1冊 美濃 仮和

御郡中寺院覚 甲 8-265
弘化 2（1845）写 1冊 半紙半 仮和

田川東庫抱夷宮古社地地福院抱毘沙門林成御検地帳 乙 13-696
弘化 4 年
弘化 4（1847）写 1冊 半紙 仮和

墓所地成御検地仕上帳 丙 8-1016
弘化 4 年（田川東庫抱夷宮古社地之内）
弘化 4（1847）写 1冊 半紙 仮和

大野村毘沙門境内林田成御検地帳 弘化 4 年 甲 11-335
弘化 4（1847）写 1冊 半紙 仮和

百沢〔寺〕再建立一件下書 甲 11-319
弘化 4（1847）写 1冊 半紙 仮和
註：百沢寺天保 10 年（1839）焼失し 同 12 年より再建を始め弘化 4 年成る

百沢寺大堂併山門下居宮御手入二付御郡中勸化一件御用状併書付留 安政 4 年（1857）御公務方 甲 11-320
写 1冊 半紙 仮和

秋田横手駅正法寺御寄附帳 甲 11-321
安政 6 年 御公務方
写 1冊 半紙 仮和

190 キリスト散

切支丹宗門御証文 宝永元年 丙 17-1213
宝永元（1704）写 1投 31×44 1枚物

切支丹類族病死之覚 明和 2 年 丙 17-1215
明和 2（1765）写 1枚 30×45 1枚物

200 歴史

210 日本

談海評論（東京日々新聞附録） 甲 6-121

東京 日報社 明治 21 (1888) 101 頁 菊 仮和
 内容：徳川氏の初政に諸大名断絶之事 松平上総介殿御進退之事 最上家断絶之事 福島左衛門大夫改易之事 蒲生家断絶之事 加藤式部少輔改易の事 酒井山城守自殺之事 加藤家断絶之事 島原生捕のもの申立の事 松平能豆守遁世之事 由井正雪等召捕之事 戸次庄右平門等一撥之事 由比丸橋併戸次土岐等が謀逆に就ては世間に有触れたる俗書どもの外正しき書に見当らず其之あるは唯林道春先生の草賊前後紀あるのみ 今幸ひに其本を得れば左に掲ぐ 明暦火災之事 堀田上野介最後の事 紀州廻米船漂流之事 殉死を禁じたる事 京都大地震之事 呉服代料之事 京極丹後守進退之事

210.09 有識故実 儀式典例（禁裏 公儀）

藩の規式は藩政（322）年中行事（385）冠婚葬祭（386）礼儀作法（387）を見よ

勅使女御使御馳走惣日記 甲 4-55

安永 2 年 弘前日記方
 安永 2 (1773) 写 1 冊 美濃 和
 註：津軽信寧公女御入内に付き勅使女御使御馳走人仰付らる

御馳走御用留帳（安永二年於青松寺） 甲 5-66

安永 2 (1773) 写 1 冊 半紙 仮和
 註：津軽信寧公女御入内に付き勅使女御使御馳走人仰付らる

諸御礼廻り服忌令 甲 7-185

天保 2 (1831) 写 1 冊 横小 仮和

秘記書（服忌令） 甲 7-195

文久 2 (1862) 写 1 冊 横小 仮和

公儀御転任ニ付御登城御行列 甲 7-167

文政 10 年 3 月 18 日
 写 1 冊 竖小 仮和

下馬ヨリ下乗橋迄召列人数之覚及下乗橋ヨリ内江召列人数之覚 丙 17-1242

写 1 帖 小 折本
 註：江戸に於ける登城

打揚腰網代乗物相用候大名姓名 丙 17-1214

写 1 帖 小 折本
 註：諸大名の乗物のきめ 打揚腰網代の分 腰網代でなく打揚の分 打揚腰網代の内一方の分 打揚でなく腰網代の分とそれぞれ大名を列記す

御着城御使者勤方之覚（御国使者勤方之覚） 甲 7-192

写 1 冊 横小 仮和
 註：江戸城に於ける御国使者の勤方

210.5 江戸時代（北辺警備）

松前ニテ狄蜂起ニ付御加勢ニ被遣候人数書 甲 8-220

寛文 9 年 (1669)
 写 1 冊 横長 仮和

杉山八兵衛松前出張帰陣之一条 寛文 9 年 (1669)

写 1 冊 横長 仮和 甲 9-294

松前御用諸書付留 寛政元年 丙 11-1068

寛政元 (1789) 写 1 冊 半紙 仮和
 註：蝦夷地派兵につき川越九郎左衛門傍島源八郎笹角之丞の書付留綴

松前御加勢御人数一式帳調 寛政元年 (1789) 丙 12-1083

写 1 冊 半紙 仮和
 註：松前加勢人数兵糧雜器一式調

松前御加勢御人数軍船調 寛政元年 (1789) 丙 12-1082

写 1 冊 半紙 仮和
 註：松前加勢一番手入用軍船調

松前御用大都一覽 寛政元年～文政 5 年 (1789～1822) 丙 13-1102

丸瀬六左衛門編
 写 1 冊 半紙 仮和

松前御用諸帳面調目録 乾 丙 12-1094

文政 5 年 (1822)
 写 1 冊 半紙 仮和
 註：寛政元年 (1789) 松前蝦夷蜂起より文政 5 年松前御番所引払までの御用留書類の目録

御人数割調帳 寛政 9 年 乙 7-493

寛政 9 (1797) 写 1 冊 半紙 和

註：松前派遣の人数割

松前箱館御固御用中御条目併口達 寛政 9 年 (1797) 丙 12-1093

写 1 冊 半紙 仮和
 註：御目付佐野吉郎兵衛の留書

松前箱館御固在陣中御触留帳 寛政 9 年 (1797) 丙 12-1092

写 1 冊 半紙 仮和
 註：御目付佐野吉郎兵衛の留帳

松前箱館勤中御用留帳 佐野吉郎兵衛 丙 11-1072
写 1冊 半紙 仮和
註：寛政9年（1797）10月より10年8月までの御目付
佐野吉郎兵衛の留帳

松前箱館御固御用留帳 丙 11-1075
写 3冊 半紙 仮和
註：寛政9年（1797）10月より10年8月までの御馬廻
番頭山内小弥太の留帳

公儀御達併御済口街伺書一式 丙 14-1134
寛政9年至享和2年（1797～1802）
写 1冊 半紙 仮和
註：蝦夷地警固に関する幕府よりの御達並御済口御伺書
の留書

公儀御役人松前箱館御固御人数御見分ニ付御用聞勤向之覚
寛政10年（1798）佐野吉郎兵衛 丙 14-1132
写 1冊 半紙 仮和
註：御用聞役佐野吉郎兵衛織田藤十郎の役向報告覚

寛政帳要用引用ケ条目 松前方 丙 16-1183
写 1冊 半紙 仮和
註：松前蝦夷蜂起の節書付留の内より要項を記せるもの

御人数割 文化4年 乙 7-494
文化4（1807）写 1冊 半紙 仮和
註：松前派遣の人数割

松前御用留帳 松前方 丙 12-1078
写 2冊 半紙 仮和
註：文化4年（1807）より同6年に至る松前方の御用留

御達拔書 丙 3-884
写 1冊 半紙 仮和

註：文化4年（1807）～同7年間の蝦夷地及北辺警備に
関する幕府御達及伺の抜書

蝦夷地為御用村上監物山岡伝十郎等渡海之一条

写 1冊 横長 仮和 甲 8-263 乙
註：文化5年（1808）幕府の役人村上監物山岡伝十郎
等蝦夷地警衛のため渡海的一件

大筒方御止之儀覚 文化7年（1810） 丙 15-1168
写 1冊 半紙 仮和
註：大筒御備場十ヶ所の内青森外六ヶ所は大筒役に代り
町同心が 小泊外二ヶ所は湊目付が勤むる等節約につい
ての伺覚

松前詰御用留 横島弥太郎 丙 11-1070
写 1冊 半紙 仮和
註：文化7年（1810）～8年まで勤番の物頭自分留とし
て御用所へ提出の控

松前方扱向 丙 11-1061
写 1冊 半紙 仮和
註：文化年開における松前勤番諸事取扱控

松前方年中調之節手本ニ可相成ケ条寄 丙 12-1099
文化8年（1811）
写 1冊 半紙 仮和
註：松前派兵の諸費用の大概

松前詰御用留 笹森勘解由 丙 11-1069
写 1冊 半紙 仮和
註：文化8（1811）～9年まで勤番の物頭自分留として
御用所へ提出の控

ヲロシヤ人一件御用留 文化9年（1812） 丙 16-1175
写 1冊 半紙 仮和

註：ロシヤ人捕虜拘囚見守番に関する一件留

船賦之覚 併川尻肥後守様竜浜崎烽火一件御尋御答之儀書
抜等 丙 16-1184

写 1冊（合本）半紙 仮和
註：非常渡海の節の船割並に松前詰三厩詰に於ける幕府
役人通行の際心得等文化10年（1813）の抜書

御用取扱之内見合ニ可相成部内控 丙 16-1178
文化14年（1817）松前御用懸
写 1冊 半紙 仮和
註：松前御用懸が詮議の時参照に便なる様にした留書

ソウヤ御固所会所取扱仕分帳併松前詰諸品渡定書
文政3年（1820）勘定方 丙 16-1174
写 1冊 半紙 仮和

三厩御仮屋御道具調帳 松前方 丙 13-1106
文政5（1822）安政2（1855）写 2冊（合本1冊）半
紙 仮和

三厩百人詰出張手順調 丙 12-1101
嘉永元年（1848）松前方
嘉永4（1851）写 1冊 美濃 仮和
註：三厩詰御人数海岸並渡海の節の手順其外の伺書の控
で 御人数割並武器配 武器仕向帳 営算 非常渡海並
諸色運送船賦仕向帳よりなる

三厩百人詰出張手順調 丙 13-1111
嘉永元年（1848）松前方
嘉永4（1851）写 2冊（合本1冊）美濃 仮和
註：前書と同じ内容

三厩百人詰御人数割同所御備御武器配 丙 13-1109
嘉永元年（1848）海岸並松前非常御用懸

- 写 1冊 半紙 仮和
註：御人数割並武器配の伺書の控
- 三厩御備御武器配仕向帳** 丙 13-1108
嘉永元年（1848）海岸並松前非常御用懸
写 1冊 半紙 仮和
註：武器配仕向の伺書の控
- 三厩百人詰営算** 丙 13-1105
嘉永元年（1848）海岸並松前非常御用懸
写 1冊 半紙 仮和
註：小屋割伺書の控
- 三厩百人詰御人数非常渡海留** 丙 13-1113
嘉永元年（1848）海岸並松前非常御用懸
写 1冊 半紙 仮和
註：非常渡海並諸色運送船賦仕向帳とも云われ伺書の控
- 御用懸物頭出張壱手分人馬調** 嘉永 2年 丙 5-932
嘉永 2（1849） 1冊 半紙 仮和
- 御用懸者頭出張一手分人馬調** 丙 5-936
嘉永 2（1849） 1冊 半紙 仮和
- 覚（海岸非常御備之儀）御用懸三奉行** 丙 16-1169
写 3冊 半紙 仮和
註：嘉永2年（1849）頃海岸非常御備手順取調の伺の写
- 三厩百人詰出張手順調** 嘉永 3年 松前方 丙 13-1110
嘉永 3（1850）写 1冊 半紙 仮和
- 西北海岸御備出張手順調** 嘉永 7年（1854） 丙 14-1145
写 1冊 半紙 仮和
- 海岸村々併八浦民兵一件** 嘉永 7年（1854） 松前方
- 写 1冊 半紙 仮和 丙 8-1034
註：異国船渡来非常の際防禦の手順につき海岸筋奉行代官よりの意見書及それについての指図書一件
- 箱館御奉行御居り方一件** 嘉永 7年（1854） 松前方
写 1冊 半紙 仮和 丙 13-1124
註：幕府用務及役人の取扱方留書
- 御調役河津三郎太郎殿江内意伺候覚** 嘉永 7年（1854）
写 1冊 半紙 仮和 丙 16-1181
註：幕府箱館奉行所役人河津三郎太郎への伺
- 海防掛御普請役井上富左右より書状向一件** 丙 16-1182
嘉永 7年（1854）
写 1冊 半紙 仮和
註：アメリカ船函館渡来のため幕府役人渡道通行の件及帰途異国船に関する江戸表への差出書の写を差出一件
なお俵物嚴重取締方の一項あり
- 御小人目付堀井鉄次郎江青森併三厩詰二而之答向一件**
嘉永 7年（1854） 丙 16-1179
写 1冊 半紙 仮和
註：台場及大筒居所等に関し幕府役人より尋られ大筒方下役が回答せるものを評議調査せるもの
- 御勘定吟味方改役青山弥惣右衛門より東海岸台場大筒方役名付差出候書状相達取調一件** 丙 16-1180
嘉永 7年（1854）
写 1冊 半紙 仮和
註：台場備人の役名人数等に関し幕府役人より問合せにより取調一件
- 百石以下御軍役無之面々用意可致品々取調帳併同軍用品製作之巻** 嘉永 7年（1854） 松前方 丙 16-1186
写 4冊（合本 1冊）半紙 仮和
- 合綴：安政三年スツツ詰御人数武器併拝借品之書付御沙汰済之表留 軍役凡例（文政6写）
- 公儀衆御扱向要用部寄** 松前方 丙 14-1133
写 1冊 半紙 仮和
註：嘉永2～安政4年（1849～1857）間の幕府役人衆の取扱に関する留書
- 松前伊豆守様東西蝦夷地勤番所併勤番人数武器手当之覚**
安政 2（1855）写 1冊 半紙 仮和 丙 16-1192
註：松前伊豆守（松前崇広）警備の人数割及武器備覚
- 逐府録** 丙 13-1114
写 1冊 美濃 仮和
註：安政2（1855）～3年幕府箱館奉行所に於ける伺書御達等の留書の写
- 箱館御陣屋定式** 安政 2年（1855） 丙 14-1129
写 1冊 半紙 仮和
註：箱館詰御人数菜銭諸手当諸色渡の定
- 西北海岸御備出張手順調** 丙 14-1146
安政 2年（1855）写 5冊（合本 1冊）半紙 仮和
合綴：海岸非常御馬廻三拾騎一備御人数割 同御手廻三拾騎一備御人数割 同御小屋割 海岸非常御馬廻手御手廻手備分御貸人併御本勢郷夫調
- 松前非常三拾騎一番手式番手御馬廻備御人数割** 其他
安政 2年（1855） 丙 12-1085
写 7冊（合本 1冊）半紙 仮和
合綴：三番手御手廻備御人数割 御馬廻御手廻壱備御貸人併御本勢郷夫調 御馬廻手併御手廻手壱備御武器調 御馬廻併御手廻壱備御小屋割
- 箱館詰物頭一手式百人詰御人数割** 併スツツ詰物頭一手百

人詰御人数割松前三百人詰士大将一手御人数割同物頭一手百五拾人詰御人数割 安政2年(1855) 松前方 写 3冊(合本1冊) 半紙 仮和	丙 13-1119	安政5(1858) 写 1冊 半紙 仮和 註:平館陣屋に於ける諸勤務の定及心得等		写 1冊 美濃 仮和 註:前半は海防に関する弘化4(1847)~嘉永4年(1851)間の公儀御達並御留届 後半は海岸出張手順	
箱館詰御人数菜銭増併御留守居方衣服料一件 安政2年(1855) 松前方	丙 13-1116	職堂 写 1冊 半紙 仮和 註:安政年間蝦夷地出兵の際松前詰江江差諸等の役割手当等	甲 3-30	御旗本御行列帳 写 1冊 半紙横長 仮和	丙 7-1001
箱館スツツ両陣詰御人数江御渡御自筆写 安政3年(1856) 写 1冊 半紙 仮和 註:派兵に対する訓告の写	丙 13-1123	松前御用留一件 写 1冊 半紙 仮和 註:安政年間蝦夷地出兵の取扱留?	丙 11-1071	御旗本附御手廻備御馬廻備御賃人並御本勢郷夫調 写 1冊 半紙 仮和	丙 7-1002
松前スツツ物頭壹手百人詰御武器根帳 安政3年 御武具奉行 安政3(1856) 写 1冊 半紙倍 仮和	丙 11-1074	細川越中守様御列 写 1冊 半紙 仮和 註:細川越中守が相模国御備御用の時末家をも参加せる例を調べ 黒石末家の蝦夷地派兵に関する覚書 安政年間	丙 16-1190	御旗本附御馬廻備御手廻備御武器調 写 1冊 半紙 仮和	丙 7-1003
箱館詰御人数江諸色渡御定 安政3年(1856) 写 1冊 半紙 仮和 註:箱館詰に於ける諸手当及諸品の渡方の定	丙 13-1115	スツツ シマコマキ引渡〔書類〕併惣目録 万延元年(1860) 箱館御留守居方 写 6冊(合本1冊) 仮和 註:幕府より領地及警衛地定められた際の引継書類写	丙 15-1157	御旗本御貸人調 写 1冊 半紙 仮和	丙 7-1004
松前箱館千代ヶ台ニ御陣屋造営之図(安政三丙辰年異国船二付) 写 1冊 48×50 豊物 【写真有】	丙 17-1202	スツツ御陣屋諸渡定式 文久元年(1861) 松前方 写 1冊 半紙 仮和	丙 14-1155	御旗本御小屋割 写 1冊 半紙 仮和	丙 7-1005
スツツ詰物頭一手百人詰御人数割併菜銭其外出立併越年御手当調 安政4年(1857) 松前方 写 1冊 半紙 仮和	丙 13-1118	海岸御警衛向之儀二付覚 写 5冊(合本1冊) 半紙 仮和 註:海岸防備に聞する伺上申等の覚 嘉永頃?	丙 14-1140	御旗本御武器調 写 1冊 半紙 仮和	丙 7-1006
箱館詰物頭一手弐百人詰御人数割併菜銭其外出立ならび越年御手当調 安政4年(1857) 松前方 写 1冊 半紙 仮和	丙 13-1117	交代御用諸事申継帳 山田衛門七 写 1冊 半紙 仮和 註:山田衛門七がソウヤ詰の御用向並に諸事申継之覚	丙 16-1177	御旗本御人数割 写 1冊 半紙 仮和	丙 7-1007
平館御陣屋勤式一件 松前方	丙 14-1152	両非常手順編集	丙 16-1193	御旗本御出馬御手順調 写 1冊 半紙 仮和 註:異国船渡来に備えて出陣の手順	丙 7-1008
				蝦夷地各藩御固持場之図 写 1冊 28×40 仮和	丙 7-1200
				松前非常一件合編 写 3冊(合本1冊) 半紙 仮和 註:松前非常御備につき在人馬入用積 御武器明細積	丙 12-1096

非常御備船配 非常御備戦法 法度 法令 行軍 船押
営法及留書

松前御渡之法令併御人数積写 丙 12-1081

写 1冊 半紙 仮和

註：松前五ヶ所御固の平日の式礼式並諸心得及百人組御備併五十人組御備配 武器割 鉄砲玉薬積

海岸非常御馬廻御手廻三拾騎一備御人数割 松前方

写 1冊 (合本1冊) 半紙

丙 14-1135

合綴：御貸人併御本勢郷夫調 西北海岸御固御馬廻御手廻両手御武器調 海岸非常三十騎壱備御小屋割作事積書共

御領内非常三拾騎御備兵粮秣雜器調

丙 7-989

写 1冊 半紙 仮和

箱館詰物頭一手式百人詰御人数割併スツ詰物頭一手百人詰御人数割 松前方

丙 13-1122

写 1冊 半紙 仮和

松前御固物頭一手百五拾人詰御人数割

丙 12-1084

写 1冊 半紙 仮和

箱館千代台御陣屋御道具帳 松前方

丙 13-1127

写 1冊 半紙 仮和

箱館詰御人数江諸道具増御備渡調帳

丙 13-1126

写 1冊 半紙 仮和

三厩勤式併御定諸色渡 松前方

丙 13-1104

写 1冊 半紙 仮和

註：三厩詰勤務の諸心得及諸品渡の定

三厩御陣屋ノ図

丙 17-1199

写 1鋪 50×67 晝物 (貴田氏旧蔵)

御自筆之写併御法令 其他

丙 15-1156

慶応2 (1866) 写 1冊 半紙 仮和

合綴：箱館御陣屋格帳 出帆御達書文例 諸触併御濟口

写 松前箱館詰御人数手順帳

註：箱館派兵に対する訓告其他諸定書

四陣併大筒方共御人数御減省調

丙 15-1166

慶応2年 (1866) 松前方

写 1冊 半紙 仮和

註：四陣即箱館詰スツ詰青森詰平館詰並に所々大筒方詰の御人数減省方調

210.6 明治時代 (維新史)

公儀御所御触留 慶応4年 留方

乙 9-574

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

御国出兵書付留 慶応4年 (1868) 松前方 丙 16-1185

写 1冊 半紙 仮和

註：一小隊御人数割 国上寺一小隊御人数割

秋田出兵帳 慶応4年 (1868) 松前方

丙 15-1164

写 1冊 半紙 仮和

註：秋田出兵の際関外出張手順人数武器調及御用状留書付留等

荘内征討応援御人数出張一件

丙 15-1165

慶応4年 (1868) 松前方

内容：行軍法度 行軍約定 法令 一手出張文通式 陣営規則 行軍宿割順席 一番立御武器調 御軍判御改革 両手分御人数大都 其他

醍醐殿御扱振一件

丙 7-1000

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

註：奥羽鎮撫総督参謀醍醐忠敬南部征討のため弘前へ転陣の際の手配方一件

御出張書付留 慶応4年 御供御小荷駄方 乙 11-623

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

註：殿様 (津軽承昭) 碓ヶ関へ御出馬被仰出候節

唐竹村出張表書院壱番銃隊御人数調

丙 8-1014

写 1冊 半紙 仮和

註：慶応4 (1868) 沢与左衛門附小荷駄方の記

碓ヶ関口為予備隊国上寺江出張式小队御人数調 丙 5-931

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

註：藩境警備のため碓ヶ関及西海岸へ出張の人数一件

御用状御濟口帳

丙 9-1043

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

註：藩境各地その他への出張についての一件書綴

荘内江出張に付手形留 慶応4年

丙 3-962

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

註：諸色金銭米及手当など渡方の控

二度目御出兵書付 慶応4年 (1868)

丙 9-1042

写 1冊 半紙 仮和

註：碓ヶ関その他藩境へ出兵の際の御給与金品その他一件書留

黒石領小湊村江出張中隊御人数調

丙 6-967

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

御出兵二付御郡内割上納引入帳 慶応4年 丙 16-1191

慶応4 (1868) 写 1冊 半紙 仮和

御出馬御旗本勢御人数調 明治2年 松前方 丙 15-1163

- 明治2 (1869) 写 1冊 半紙 仮和
 註：御旗本兵員調その他金銭引入諸色渡等箱館出陣一件
- 御所併御家御用状御触留** 明治2年 乙 9-575
 明治2 (1869) 写 1冊 半紙 仮和
- 太政官達書** 丙 7-995
 写 1冊 半紙 仮和
 註：明治4年 (1871) の青森県布令及明治3～4年の太政官達の写
- 維新史料** 第7, 8, 48～61編 野史台編 丙 9-1044
 東京 編者 明治21～23 1冊 半紙 仮和
- 212.1 青森県史**
- 本藩濫觴実記** 甲 5-94
 写 1冊 半紙 仮和
 内容：御当家御遠祖之事 (安倍系図 藤氏系図) 古来居館之事 津軽合浦之濫觴附鯨国之説 田光之珠之奇事附舍利浜之弁 岩木山之始元 津軽夷賊代々征罰之事 奥州五十四郡二分ル事附津軽郡村分ノ事 唐糸ノ前流罪附死去之事 津軽之郡司附住国侍之事
- 津軽藩旧記類草稿** 甲 1.2-1
 下沢保躬 樋口建良 兼松成言 (誠) 共編
 明治7～15 (1874～1882) 写 12冊 半紙 仮和 (旧蔵者：樋口建良→藤田貞元→外崎覚)
 註：日記記録家記等より抜抄し編年体に編纂したものですべてその出典を明記す 始祖秀榮公永長元年 (1096) に始まり承昭公明治5年 (1882) に終る 津軽歴代記類は本書の巻頭即秀榮公より盛信公までを省き政信公より始まる同一内容のものである
- 南部故実抜萃** 菊池金吾編 甲 5-86
- 写 1冊 半紙 仮和
 註：建武2年 (1335) 至寛文9年 (1669)
- 永祿日記** 甲 4-37
 安政4 (1857) 写 (和田英輝) 1冊 半紙 仮和 (外崎覚旧蔵)
 註：永祿元年 (1558) より宝永7年 (1710) まで流布本にして北畠本にあらず
- 津軽旧記平嘉** 甲 3-22
 安政4 (1857) 写 (和田英司) 1冊 半紙 仮和
 註：津軽之由来に始まり享保7年 (1722) に終る 津軽根本由来記と題せる写本も本書と同一である
- 当地津軽記 (外題：当地記)** 甲 4-36
 写 1冊 半紙 仮和
 註：大浦光信より寛文9年 (1669) まで
- 津軽古事伝記** 卷1至7 (22卷ノ内) 藤原 (今) 通麿編 甲 3-14
 写 7冊 半紙 仮和
 註：大浦光信寛正元年 (1460) より津軽信義明暦元年 (1655) まで以下欠 序によれば寛政3年まで編せるもの
- 本藩歴年亀鑑 (外題：御国年代記)** 甲 3-31
 写 1冊 半紙 仮和
 註：大浦光信より文化10年 (1813) までの年表
- 津軽記 (石井三庵手簡)** 甲 5-70
 明治10 (1877) 写 1冊 半紙 仮和
 註：寛永9年 (1632) 石井三庵 (政満) と云う医人が書写して郷里伊賀殿家来に送りしもの写とあり
- 慶長日記** 甲 3-32
 写 1冊 半紙 仮和
 註：慶長12年 (1607) ～延享元年 (1744)
- 公務年普** 甲 8-222
 写 1冊 半紙半 仮和
 註：津軽為信天正18年 (1590) より寧親文化5年 (1808) まで幕府の公務年譜
- 津軽藩史略 (稿本) 2巻** 工藤主善著 甲 3-23
 写 (明治23年出版の稿本) 2冊 (合本1冊) 半紙 仮和
 註：津軽為信より安政5年 (1858) まで
- 御当家深秘録** 甲 5-92
 写 1冊 半紙 仮和 (御日記方旧蔵本)
 註：天海大僧正津軽信牧に東照宮勸請せしめ又天台宗を興隆せしめることを記す
- 信義公御代日記** 甲 4-49
 写 1冊 半紙 仮和
 註：寛永8年 (1635) ～明暦元年 (1655)
- 信政公御代日記** 甲 4-50
 写 1冊 半紙 仮和
 註：明暦2年 (1656) ～貞享4年 (1687)
- 秘事記** 甲 8-266
 写 1冊 半紙半 和
 内容：御手廻備 御馬廻備 小屋間数之覚 古来御軍役之覚 所々脇道番人 高照宮御遺鑑抜書 御日記方年代記書抜 (寛文元年～文化12年)
- 年代記** 甲 8-270
 写 1冊 半紙半 仮和
 註：寛文元年 (1661) ～明和9年 (1772) 間の発駕着城のみの年譜
- 樋口達** 甲 6-149

- 写 2冊 半紙 仮和
註：延宝4年(1676)～寛政11年(1799)
- 御自筆之写併御家老中口達之写** 宝暦5年(1755)より
文化9年(1812)迄 甲 6-132
写 1冊 半紙 仮和
註：津軽信寧・信明・寧親の三代
- 体孝院様御自筆御書付之写** 甲 6-131
写 1冊 半紙 仮和
註：体孝院(津軽信明)天明4,5年(1784,5)間の御自筆書付の写
- 体孝院様御自筆写併上弧院様御書付之写** 甲 6-130
写 1冊 半紙 仮和
註：体孝院(津軽信明)上仙院(津軽寧親)二代宝暦7年(1757)～文化7年(1810)間の御書付の写
- 黒石御領論山之儀二付書付併論山南部進状返状之帳**
正徳2年(1712)附堀指山絵図 乙 10-582
写 6冊 半紙 仮和
註：津軽南部領境論山訴訟一件
- 御廻状留** 延享元年(1744)至同3年 乙 14-725
写 1冊 半紙 仮和
- 明和三年大地震御城中弘前併在浦破損調覚** 乙 9-578
明和3(1766)写 4冊 半紙 美濃 仮和
- 廻状留** 明和5年至同9年 甲 8-233
明和5(1768)～9 写 1冊 横長 仮和
註：藤田小三郎(貞庸)の留書
- 臨時留** 御公務方 丙 8-1033
写 1冊 半紙 仮和
- 註：明和6年(1769)～元治2年(1865)間の諸留書
- 御家中在宅之族村寄** 丙 10-1045
寛政7(1795)写 1冊 美濃半(横)
註：在宅者(藩士の村里に移住せる者)の村別人名
- 御家中在宅之族村寄** 丙 10-1046
寛政7(1795)写 1冊 美濃半(横) 仮和
註：在宅者のいろは別人名附村名及村までの里数
- 御家中之内濱町屋敷街道共坪数改帳** 乙 7-495
寛政9年(1797)
写 2冊 半紙 仮和
- 御廻状留** 乙 14-726
写 1冊 半紙 仮和
註：文化5年(1808)頃の廻状
- [津軽三十郎足石之御達] 丙 17-1223
写 1枚 19×31 一枚物
註：文化6年(1809)黒石津軽藩四千石より一万石に増石の御達の写 津軽三十郎(親足)は第八代黒石藩主
- 白沢一件書類**(笠原八郎兵衛より幕府へ上申せし覚書草稿) 甲 4-51
笠原八郎兵衛 文政4年
文政4(1821)写 1冊 美濃 仮綴
註：相馬大作(下斗米秀之進)事件
- 別帳・覚書** 甲 4-47
明治25(1892)写(津軽家秘蔵文書に依る)1冊 半紙 仮和
註：別帳 覚書の2冊を1冊に写せるもの 共に相馬大作事件に関するもの 覚書は三奉行が事件の発端よりの覚書 別帳は前書きによれば三奉行預りの帳面を引合せの上帳面になき分のみ書き留めたもの
- 仙台喜七出訴一件留記** 文政4年(1821) 甲 4-45
明治25(1892)写(津軽家秘蔵文書に依る)1冊 半紙 仮和
註：相馬大作(下斗米秀之進)事件
- 神田様田安様ヨリ御内慮之儀二付始末取調覚書**(外題：御内用取調覚書) 文政5年(1822) 甲 4-48
明治25(1892)写(津軽家秘蔵文書に依る)1冊 半紙 仮和
註：侍従様御隠居被遊御願候二付御内密調ともあり 相馬大作(下斗米秀之進)事件に関係あり
- 文政六未別段御用留** 甲 4-46
明治25(1892)写(津軽家秘蔵文書に依る)1冊 半紙 仮和
註：相馬大作事件後殿様御下向に際し残党の取調留
- 御所御書付之写** 慶応4年 丙 8-1013
席 1冊 半紙 仮和
註：慶応4年(1868)及明治2年の村高報告方並びに軍資金献納についての指合写
- 古記大全(草稿本) 藤田貞元編** 甲 3-13
写 1冊(9冊合本)写(明治10頃)半紙 仮和
内容：古記真覧集 藤田雑集 津島家記抜書 津軽編覧日記(本立日記) 寛文御日記抜書 寛文江戸日記抜書 旧記当座留雑集 旧記抜書参考書 新選古記集古記両説考
註：藤田貞元の草稿を合本して古記大全と題せるものにして主として古文書の書写日記記録類の抜書及其の考証なり
- 古日記集録下案(草稿本) 藤田貞元編** 甲 3-21
写(明治初)1冊 半紙 仮和
註：古記大全と同じく津軽藩史に関する諸書の抜書及考証にして古記大全下案と題する部分もあり

要留雑集	甲 8-239	明治3 (1870) 写 1冊 半紙 仮和			
写 3冊 横長 仮和					
津軽旧記抜書及諸書付	丙 17-1226	土族卒在任一件 明治4年	乙 9-572		
写 2束		明治4 (1871) 写 1冊 半紙 仮和			
書簡写及覚書き	丙 17-1228	在宅一件 明治4年 用度方	乙 9-573		
写 1束 (51通)		明治4 (1871) 写 1冊 半紙 仮和			
〈明治維新〉					
覚	丙 2-379	移住村附帳 (二百俵ヨリ三十五俵マデ)	甲 8-264		
写 1冊 半紙 仮和		写 1冊 半紙半 仮和			
註：慶応4年 (1868) 1年間の政治向覚書		註：明治4年 (1871) 土族在宅里村引越の際			
明治元辰年三月小銃式千挺英商ホルトルより買入約定破談 ニ付前納金請戻之儀ニ付東京外務省併箱館開拓使ニテ御扱 ニ相成候書付之内要用品之処抜書調帳 (明治三年九月伊東左 馬橋取調差出候表)	丙 10-1051	在着移住ニ付御手当帳 明治4年 引越取扱	乙 15-738		
明治3 (1870) 写 1冊 半紙 仮和		明治4 (1871) 写 1冊 半紙 仮和			
黒石分割一件	丙 17-1236	拾五俵以下卒御手当御判帳及び本帳出入之部	乙 15-739		
写 1束 (4通)		明治4年 会計局			
註：明治初年黒石藩知事分割之件		明治4 (1871) 写 2冊 半紙 仮和			
諸書付留帳	乙 11-624	註：15俵以下土族卒及び諸職人への手当渡の判帳			
写 1冊 半紙 仮和		駒越組村々士卒水帳 明治4年 租税署	乙 13-897		
註：明治2 (1869) ~ 3年の藩庁留帳		明治4 (1871) 写 1冊 半紙 仮和			
御用留帳	乙 11-626	御家中在任ニ付御手当初渡帳	丙 7-980		
写 1冊 半紙 仮和		写 4冊 半紙 仮和			
註：明治3年 (1870) の藩庁御用留		註：明治4 (1871) 藩士15俵以上の手当初渡			
民政議案草稿 民事掛	丙 5-947	駒越組樋口村田畑御分与割出張	乙 9-565		
		写 1冊 半紙 仮和			
		註：明治4 (1871) 在宅士卒への割出			
		駒越組村々田畑御分与割出張	乙 9-564		
		写 特1 半紙 仮和			
		註：明治4年 (1871) 在宅士卒への割出			
		猿賀組屋敷割調帳 明治4年 (追手野木 原 八幡崎 野曾江 蒲田 新山 浅瀬石 高賀野 猿賀 糸 中川 袋村) 検査方	乙 8-543 乙		
		明治4 (1871) 写 9冊 半紙 仮和			
		高杉組村々御分与田畑割入惣括	乙 9-566		
		写 1冊 半紙 仮和			
		註：明治4年 (1871) 在宅士卒への割出			
		屋敷割調帳 調方	乙 8-539		
		写 1冊 半紙 仮和			
		註：明治4年 (1871) 在宅士卒屋敷割			
		高杉組在着士卒屋敷割帳 明治4年 (高杉 榎木 高屋 独狐 八幡 小島 中別所 貝沢 鬼沢 宮館) 調方	乙 8-540		
		明治4 (1871) 写 4冊 半紙 仮和			
		高杉組熊島村在宅士卒屋敷割帳 明治4年 調方	乙 8-538		
		明治4 (1871) 写 1冊 半紙 仮和			
		尾崎組屋敷割調帳 明治4年 (新館 広船 新屋 町居 唐竹 大坊 石郷 尾崎 柏木町 岩館 小杉 原田 沖 館 高木村) 検査方	乙 8-523		
		明治4 (1871) 写 1冊 半紙 仮和			
		赤田組村々屋敷割調帳 明治4年	乙 8-552		
		明治4 (1871) 写 1冊 半紙 仮和			
		広須木造両組屋敷調	丙 10-1056		
		写 1冊 半紙 仮和			
		註：明治4年 (1871) 在宅士卒屋敷割			
		浪岡組村士卒屋敷割調帳	乙 8-522		
		写 1冊 半紙 仮和			
		註：明治4 (1871) 在宅士卒屋敷割			

御士族卒在御引越御名前調 明治5年 甲 7-151
 明治5(1872)写 1冊 横長 仮和

214 北陸地方

信州大地震変事之儀二付御届書写併乳井彌吉佐藤準助於信
 州善光寺駅変難始末申出書付江御沙汰向之写 乙 8-577
 弘化4年
 弘化4(1847)写 1冊 半紙 仮和
 註：大地震につき関係各藩より幕府への御届書写及び乳井
 佐藤伊勢太々御神楽御用にて登道中大地震に遭難始末一件

281 伝記(人名録 分限帳 知行帳)

津軽系譜 石井三庵(政満) 甲 5-95
 写 1冊 半紙 仮和
 註：石井三庵は寛永頃の他藩の医人 津軽の主なる人
 名を簡単に記せるもの

惣御足軽知行高併支配分定 丙 4-910
 延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
 註：勘定所備付之元帳

妙心院様御代家中一列御次第 甲 7-176
 元禄元年(1688)
 写 1冊 横小 仮和
 妙心院：津軽信政

江戸御国両所御人数役付帳 天和2年(1682) 甲 7-204
 弘化4(1847)写 1冊 横長 仮和

越後高田領御検地二付役付之覚 天和2年 甲 7-158
 天和2(1682)写 1冊 横長 仮和

諸組郷土堰役御牧役人別根帳 明和4年(1767) 地方

写 1冊 半紙 仮和

丙 16-1172

江戸勝手知行投寄分限 宝暦6年 丙 1-867
 宝暦6(1756)写 1冊 美濃 仮和

知行分限帳 宝暦7年 丙 1-868
 宝暦7(1757)写 1冊 半紙倍 仮和
 註：士分のいろは順名寄の帳

上方御家中分限御合力之覚 安永4年 丙 1-870
 安永4(1775)写 1冊 美濃 仮和

日光御社参御留守中御上屋敷へ被仰付候部 甲 8-263 甲
 写 1冊 横長 仮和
 註：安永5年(1776)4月日光御参りの御留守中江戸上
 屋敷詰の役付及心得

御郡内郷土堰役手代漆守併御牧役名所居村共引入根帳
 文化10年 地方 丙 3-882
 写 1冊 半紙 仮和
 註：文化10年(1813)～明治3年(1870)

御家中之面々甲冑所持調帳 文政5年 甲 8-275
 文政5(1822)写 1冊 横長 仮和

京大坂御家中併御館入町人分限帳 天保2年 丙 5-957
 天保2(1831)写 1冊 半紙 仮和

京大坂御家中併上方御館入諸町人分限帳 天保6年 丙 5-958
 天保6(1835)写 1冊 半紙 仮和

京大坂御家中併御館入町人分限帳 丙 5-959
 天保11年 御勝手方
 天保11(1840)写 1冊 半紙 仮和
 註：各人の略歴を附記す

京大坂御家中館入諸町人知行俵子分限帳 丙 5-960
 写 1冊 半紙 仮和
 註：天保13年(1842)頃のもの

常府御家中分限帳 嘉永2年 丙 1-869
 嘉永2(1849)写 1冊 美濃 仮和

御武具職人分限帳 慶応2年 御公務方 丙 1-871
 慶応2(1866)写 1冊 半紙倍 仮和
 註：給分と職歴を略記す

各所出張御賞引入帳 明治2年 非常方 丙 7-988
 明治2(1869)写 1冊 半紙 仮和
 註：慶応3年各所に出張の際の賞与

御下向二付碇関へ御着日罷出候人別帳 甲 7-164
 写 1冊 横長 仮和

廻雇掃除方 会計局 丙 3-889
 写 1冊 美濃 仮和
 註：いろは順名寄帳

南部御家中姓名 甲 8-276
 写 1冊 横長 仮和

豆州熱海今井半太夫玄関二懸有之御関札之写 丙 17-1225
 写 1帖 小 折本
 註：今井半太夫玄関に懸けてある宿泊大名等の名を列記
 す 津軽右京亮津軽土佐守津軽越中守母等あり

〈知行帳〉

知行帳 正徳2年9月 丁 1-1
 正徳2(1712)写 66冊 美濃 仮和
 内容：第1会田伊兵衛 第2赤石藤馬 第3秋元杵右衛門

第4浅利喜太郎 第5阿部与七郎 第6海老名弥門 第7大沢喜左衛門 第8葛西宇兵衛 第9葛西甚之助 第10笠井兵部 第11釜范八郎右衛門 第12川村佐源治 第13菊地源太左衛門 第14木崎次左衛門 第15工藤源蔵 第16工藤半左衛門 第17工藤次郎左衛門 第18桑田五左衛門 第19今十内 第20斎藤小左衛門 第21笹角之丞 第22佐々辰之進 第23佐々木所左衛門 第24佐々木久次郎 第25佐野吉郎兵衛 第26白戸太兵衛 第27神庄左衛門 第28渋谷孫兵衛 第29鹿内善次郎 第30杉山田金十郎 第31薄田紋次郎 第32高杉形左衛門 第33竹内長左衛門 第34武田小左衛門 第35築館庄右衛門 第36津軽文蔵 第37対馬甚助 第38対馬瀬兵衛 第39手塚四郎兵衛 第40土岐只之助 第41外崎吉十郎 第42長崎伝右折門 第43梨田要之助 第44奈良常次郎 第45奈良岡官兵衛 第46成田八十之助 第47成田藤一郎 第48成田七九郎 第49成田与七郎 第50成田十兵衛 第51野宮伴左衛門 第52平川三太夫 第53福士久左衛門 第54蒔苗市兵衛 第55三浦市左衛門 第56三上嘉右衛門 第57水木惣右衛門 第58水木喜兵衛 第59棟方十左衛門 第60棟方市五郎 第61村田浅右衛門 第62山田庄蔵 第63山田金弥 第64山屋浅右衛門 第65湯元弥七郎 第66吉町又左衛門

知行帳 (笠井兵部) 正徳2年10月 丁 1-2
正徳2 (1712) 写 1冊 美濃 仮和

知行帳 正徳3年3月 丁 1-3
正徳3 (1713) 写 16冊 美濃 仮和
内容：第1赤石藤馬 第2阿部与七郎 第3工藤源蔵 第4工藤半左衛門 第5斎藤小左衛門 第6佐々木所左衛門 第7白戸太兵衛 第8薄田太郎兵衛 第9高杉伝右衛門 第10竹内亀之助 第11成田七九郎 第12成田十兵衛 第13成田藤十郎 第14野宮伴左衛門 第15三浦武兵衛 第16水木三八郎

知行帳 (知行之内堰下成代地割付帳) 正徳3年3月 丁 1-4
正徳3 (1713) 写 2冊 美濃 仮和
内容：第1白戸太兵衛 第2山屋小次郎

知行帳 (知行之内諸品成代地割付帳) 正徳3年3月 丁 1-5
正徳3 (1713) 写 1冊 美濃 仮和
内容：高倉五兵衛

知行帳 (知行之内荒代地割付帳) 正徳3年3月 丁 1-6
正徳3 (1713) 写 1冊 美濃 仮和
内容：棟方十左衛門

知行帳 丁 2-7
写 70冊 美濃 仮和
内容：第1一戸定兵衛 第2大湯市兵衛 第3大湯市兵衛 第4小笠原作兵衛 第5小山内安貞 第6葛西忠太郎 第7葛西万之助 第8兼平長蔵 第9釜范源之助 第10菊地玄順 第11北原武左衛門 第12北原武左衛門 第13喜多村鉄之助 第14喜多村監物 第15木村源之助 第16今十内 第17今常左衛門 第18佐々木孫兵衛 第19佐々木四郎兵衛 第20笹角之丞 第21佐藤吉郎 第22佐藤保之助 第23沢与左衛門 第24進藤吉郎 第25相馬作左衛門 第26大道寺隼人 第27大道寺唯八 第28高瀬氷之助 第29高屋富太郎 第30滝川金蔵 第31竹中忠左衛門 第32館美文内 第33建部登 第34種市吉五郎 第35築館奥左衛門 第36津軽外記 第37対馬桑次郎 第38対馬桑次郎 第39土岐幸八 第40土岐渡人 第41土門三八郎 第42豊島太次郎 第43成田茂左衛門 第44野呂助左衛門 第45野呂此母 第46原子新五左衛門 第47堀忠八郎 第48堀弥三郎 第49本田常之助 第50牧野茂八 第51牧野茂八 第52松山玄三 第53間宮一学 第54間宮一学 第55棟方十左衛門 第56棟方十左衛門 第57棟方十左衛門 第58棟方十左衛門 第59棟方作右衛門 第60村井新助 第61吉村場左衛門 第62横島勝右衛門 第63横山弥七 第64和島安左衛門

第65~70氏名なし

知行帳 享保6年11月 丁 2-8
享保6 (1721) 写 1冊 美濃 仮和
内容：和田玄隆

知行帳 享保6年11月 丁 2-9
享保6 (1721) 写 1冊 美濃 仮和
内容：第1島村仲 第2笹森乙蔵

知行帳 寛保3年2月 丁 2-10
寛保3 (1743) 写 1冊 美濃 仮和
内容：秋元金九郎

知行帳 延享元年9月 丁 2-11
延享元 (1744) 写 1冊 美濃 仮和
内容：笠原八郎兵衛

知行帳 宝暦5年2月 丁 2-12
宝暦5 (1755) 写 1冊 美濃 仮和
内容：釜范兵左衛門

知行帳 宝暦5年6月 丁 2-13
宝暦5 (1755) 写 1冊 美濃 仮和
内容：三上孫兵衛

知行帳 宝暦8年4月 丁 2-14
宝暦8 (1758) 写 1冊 美濃 仮和
内容：兼平長蔵

知行帳 宝暦8年8月 丁 2-15
宝暦8 (1758) 写 1冊 美濃 仮和
内容：三上久太郎

知行帳 宝暦8年6月 丁 2-24

宝暦8(1758)写 10冊 美濃 仮和

内容：第1い部は部に部ほ部と部 第2ち部を部わ部か部 第3よ部た部そ部 第4つ部な部 第5む部う部の部く部 第6や部ま部ふ部こ部江部て部 第7あ部さ部 第8き部ゆ部み部し部 第9ひ部も部せ部す部 第10寺社部

知行帳 宝暦10年5月

丁5-16

宝暦10(1760)写 109冊 美濃 仮和

内容：第1青沼求馬 第2秋元金九郎 第3足立亀之丞 第4新屋源次郎 第5有海七太夫 第6安藤七郎左衛門 第7石井清太夫 第8石岡伝三郎 第9石岡角兵衛 第10石岡儀兵衛 第11石岡勘四郎 第12石郷岡孫左衛門 第13石郷岡徳左衛門 第14石郷岡善左衛門 第15石沢円七 第16井関兵左衛門 第17市川益之丞 第18一戸定兵衛 第19一戸定兵衛 第20一戸助太郎 第21一戸甚蔵 第22一戸幸八 第23出町半兵衛 第24伊藤彦太夫 第25井上次左衛門 第26猪股九兵衛 第27今井新八 第28岩崎長吉郎 第29岩庭吉兵衛 第30岩淵安左衛門 第31岩淵安左衛門 第32上田太五郎 第33鶴川八三郎 第34鶴川八三郎 第35蝦名丈左衛門 第36大瀬十之丞 第37太田兵左衛門 第38太田十蔵 第39太田権左衛門 第40大里伴之丞 第41大湯甚吾 第42大湯彦五郎 第43大和田伊兵衛 第44岡左内 第45小笠原久蔵 第46岡本弥吉郎 第47小川吉五郎 第48小山内安左衛門 第49小山内官蔵 第50 小山内藤兵衛 第51小山内甚之助 第52小山内武兵衛 第53長内小三郎 第54小山内宗左衛門 第55小山内宗左衛門 第56小山内宗左衛門 第57小山内作左衛門 第58小山内作左衛門 第59織田兵内 第60小田桐幸之丞 第61小田桐喜兵衛 第62小友次兵衛 第63小野運八 第64小野要之助 第65小野十助 第66小山次郎太夫 第67小山五左衛門 第68角田市郎兵衛 第69角田弥八 第70葛西彦六 第71葛西富之進 第72葛西甚左衛門 第73笠原八郎兵衛 第74神山熊之丞 第75唐牛善八 第76唐

牛吉次郎 第77川越八郎左衛門 第78川越清左衛門 第79川越佐五左衛門 第80川越惣左衛門 第81川村新助 第82菊池三左衛門 第83菊池源助 第84菊池治部左衛門 第85貴田忠吉郎 第86木立要左衛門 第87木村専治郎 第88木村善治 第89木村茂右衛門 第90木村勇八 第91木村空之助 第92木村八左衛門 第93木村市左衛門 第94久慈定次郎 第95葛巻形右衛門 第96楠美安五郎 第97工藤次左衛門 第98工藤伝兵衛 第99工藤伝兵衛 第100工藤新六 第101工藤忠次 第102工藤勘十郎 第103工藤熊次郎 第104工藤嘉次郎 第105工藤嘉次郎 第106工藤福次郎 第107工藤三之助 第108工藤喜内 第109黒石藤太夫

知行帳 宝暦10年5月

丁6-16

宝暦10(1760)写 100冊 美濃 仮和

内容：第110黒石万左衛門 第111黒石勘左衛門 第112黒滝孫蔵 第113黒滝安之助 第114桑田五左衛門 第115栗原次左衛門 第116古川三太夫 第117古川伝左衛門 第118小鹿三左衛門 第119小館角兵衛 第120小館八左衛門 第121後藤三太左衛門 第122今長左衛門 第123今又次郎 第124今常左衛門 第125今助五郎 第126今甚九郎 第127斎藤彦左衛門 第128斎藤文太左衛門 第129斎藤忠兵衛 第130斎藤小左衛門 第131斎藤甚吉 第132斎藤堅次 第133斎藤李兵衛 第134斎藤市三郎 第135斎藤甚之助 第136斎藤富五郎 第137榊福之丞 第138坂元勘兵衛 第139坂本吉十郎 第140桜田富五郎 第141桜庭兵助 第142桜庭兵助 第143桜庭次郎太夫 第144桜庭伴太夫 第145桜庭又左衛門 第146笹要人 第147佐々木又八 第148笹森権蔵 第149笹森乙五郎 第150笹森佐兵衛 第151笹森勘太郎 第152笹森甚左衛門 第153笹森次左衛門 第154笹森次左衛門 第155笹村宗内 第156佐藤又兵衛 第157佐藤理兵衛 第158佐藤伝左衛門 第159佐藤伝左衛門 第160佐藤吉郎 第161佐藤幸次郎 第162佐藤与五郎 第163佐藤伴左衛門 第164佐

藤和左衛門 第165佐藤源左衛門 第166佐和与左衛門 第167三戸小八郎 第168鹿内伊兵衛 第169七戸助左衛門 第170渋谷富五郎 第171白戸八郎左衛門 第172白取数馬 第173白取数馬 第174神吉郎治 第175神源八 第176神力之助 第177神力之助 第178神弥三郎 第179神定右衛門 第180神彦市 第181進藤五郎兵衛 第182進藤太郎左衛門 第183杉山千吉郎 第184鈴木吉郎次 第185須藤嘉左衛門 第186須藤種次郎 第187須藤忠兵衛 第188須藤五郎太夫 第189須藤太治馬 第190須藤伝次郎 第191清野次郎左衛門 第192清野安兵衛 第193関権次郎 第194関太左衛門 第195添田春之助 第196相馬九八郎 第197相馬九太夫 第198相馬次兵衛 第199傍島九郎左衛門 第200大道寺隼人 第201大道寺隼人 第202田浦吉左衛門 第203高倉五兵衛 第204高瀬藤四郎 第205高杉覚左衛門 第206高松太四郎 第207高屋富太郎 第208高屋惣吉 第209滝川藤九郎

知行帳 宝暦10年5月

丁7-16

宝暦10(1760)写 100冊 美濃 仮和

内容：第210田口十兵衛 第211竹内衛士 第212竹内甚左衛門 第213竹内又市 第214竹内又市 第215竹内門弥 第216武田蔵之丞 第217館山文弥 第218館山善左衛門 第219建部登 第220田中幸左衛門 第221田中久太郎 第222田中彦太郎 第223田中太郎五郎 第224谷口有兵衛 第225種市吉五郎 第226田村太次郎 第227千葉助太郎 第228千葉相良 第229千葉民兵衛 第230津軽百助 第231津軽主水 第232津軽主水 第233津軽主水 第234津軽多膳 第235津軽外記 第236津軽文蔵 第237津軽権之助 第238津軽権之助 第239津軽権之助 第240対馬忠太 第241対馬忠八 第242対馬軍蔵 第243対馬勝左衛門 第244対馬藤蔵 第245対馬七郎兵衛 第246対馬金七 第247対馬円次郎 第248対馬弥三兵衛 第249寺田熊之助 第250寺田慶次郎 第251寺山直八 第252戸田佐

五郎兵衛 第253戸田清左衛門 第254戸田清左衛門
 第255外崎砂五郎 第256外崎権太夫 第257外崎甚太夫
 第258外崎与蔵 第259都谷森甚之丞 第260都谷森甚之丞
 第261豊島勘左衛門 第262豊島勘左衛門 第263永井忠之丞
 第264長尾新左衛門 第265長尾新左衛門 第266長尾忠左衛門
 第267長崎伝十郎 第268永沢喜内 第269中田久太夫
 第270中田八左衛門 第271永田九兵衛 第272永野仁左衛門
 第273中畑喜八郎 第274中畑半兵衛 第275中畑堅次郎
 第276中畑八之丞 第277中村道救 第278奈良嘉太夫
 第279奈良只之進 第280奈良岡十太夫 第281奈良岡太左衛門
 第282成田三太夫 第283成田左仲 第284成田七郎兵衛
 第285成田彦八 第286成田勘兵衛 第287成田文左衛門
 第288成田惣次郎 第289成田左次兵衛 第290成田弥三郎
 第291成田理助 第292成田市左衛門 第293成田保次郎
 第294鳴海源蔵 第295鳴海八右衛門 第296鳴海十之丞
 第297西館織部 第298西館縫殿之助 第299乳井庄左衛門
 第300野呂忠左衛門 第301野呂軍次 第302野呂源太
 第303野上吉五郎 第304野呂五郎作 第305芳賀甚兵衛
 第306廻間新助 第307橋本吉郎左衛門 第308長谷川源助
 第309長谷川茂兵衛

知行帳 宝暦10年5月 **丁 8-16**

宝暦10(1760)写 100冊 美濃 仮和
 内容：第310長谷部十蔵 第311八反田久右衛門 第312花田伝次郎
 第313花田源次郎 第314花田市右衛門 第315馬場郷左衛門
 第316林源太 第317原九八郎 第318原子理兵衛
 第319原子理兵衛 第320原子新五左衛門 第321原子所左衛門
 第322晴山弥左衛門 第323伴仁十郎 第324半田忠左衛門
 第325疋田喜八郎 第326樋口兼蔵 第327樋口弥三郎
 第328樋口八左衛門 第329日野伊兵衛 第330平沢権太夫
 第331広田吉蔵 第332広田文太兵衛 第333広田文太兵衛
 第334広船八郎左衛門 第335福沢兵右衛門 第336福

士忠次 第337藤田浅之丞 第338藤田新左衛門 第339藤田久太夫
 第340藤田源三郎 第341藤田権左衛門 第342船水安左衛門
 第343堀五郎左衛門 第344堀五郎左衛門 第345本間吉左衛門
 第346前田長太夫 第347牧野紋次郎 第348増田安左衛門
 第349松井助左衛門 第350松浦甚五左衛門 第351松田兼次郎
 第352松田伝太郎 第353松山善左衛門 第354間宮市三郎
 第355開山兵左衛門 第356三浦亦三郎 第357三浦与右衛門
 第358三浦文之助 第359三浦次五左衛門 第360三浦半之助
 第361三上徳蔵 第362三上与三郎 第363三上藤吉
 第364三上次郎兵衛 第365三上常左衛門 第366三上甚内
 第367三上理左衛門 第368三上林七 第369三上源橘
 第370三上伴之丞 第371水水兵左衛門 第372三橋勘之丞
 第373光保長太夫 第374溝江万吉郎 第375宮下弥十郎
 第376宮館忠八 第377武藤大五郎 第378棟方弥市郎
 第379棟方嘉太夫 第380棟方十左衛門 第381村上藤次郎
 第382村上弥三郎 第383毛内藤左衛門 第384毛内弥藤太
 第385毛内弥藤太 第386森善次兵衛 第387森岡主膳
 第388八木橋勘助 第389八木橋瀬左衛門 第390八木橋藤左衛門
 第391八木橋市太郎 第392八木橋嘉左衛門 第393八木橋作左衛門
 第394山形次左衛門 第395山口瀬兵衛 第396山田彦兵衛
 第397山中六左衛門 第398山野角次郎 第399山野角次郎
 第400山内弥五兵衛 第401山本武五郎 第402山屋八三郎
 第403横山十助 第404吉崎八弥 第405吉町儀兵衛
 第406吉村場左衛門 第407吉村場左衛門 第408和田太左衛門
 第409渡部金十郎

知行帳 宝暦10年5月 **丁 2-17**

宝暦10(1760)写 2冊 美濃 仮和
 内容：第1成田三郎右衛門 第2八木橋勘右衛門

知行帳 明和4年2月 **丁 2-18**

明和4(1767)写 1冊 美濃 仮和

内容：斎藤市五郎

知行帳 (知行仕分帳) **丁 2-19**

写 1冊 半紙 仮和
 内容：兼平長蔵

知行帳 (知行仕分帳) 明和7年4月 **丁 2-20**

明和7(1770)写 2冊 半紙 仮和
 内容：第1会田伊兵衛 第2今長左衛門

知石帳 (知行仕分帳) **丁 2-21**

写 1冊 半紙 仮和
 内容：武田蔵之丞

知行帳 (知行仕分帳) **丁 2-22**

写 1冊 半紙 仮和
 内容：小山内安貞

知行帳 寛政7年 **丁 2-23**

寛政7(1795)写 2冊 美濃 仮和
 内容：第1成田祐右衛門 第2今富弥

知行諸品代地書替目録 **丁 1**

写 1束 (100通)

知行一卷留帳 宝暦5年 地方 **丙 1-865**

宝暦5(1755)写 1冊 美濃 仮和
 註：宝暦5年～同8年間の家中知行及右蔵入地など

新知御加増知行帳 宝暦8年以来 **丙 1-863**

宝暦8(1758)写 1冊 美濃 仮和

自前々知行上り地 **丙 1-866**

写 1冊 美濃 仮和
 註：宝暦～天明年間の知行召上られ上り地の留書

田畑高反別調 甲 7-154

写 1冊 美濃半(横) 仮和

註：題名不適當 知行地方の伺留帳にして宝暦8年～寛政4年(1758～1792)間の知行水帳の改め変更等に関する事務書類

御家中年々諸品成代地書替目録留 乙 16-782

写 1冊 半紙倍 仮和

註：宝暦10～天明元年間(1760～1781)御家中の減高及潰地の代地渡替目録留帳

〈屋敷帳〉

御家中屋舗改大帳 宝暦5年 第2至6 乙 2-373

宝暦5(1755)写 5冊 半紙倍 仮和

弘前町惣屋舗改大帳 宝暦6年 12巻目1巻 乙 2-378

宝暦6(1756)写 13冊 半紙倍 仮和

288.2 系譜 系図

藤氏系図 丙 17-1217

写 1帖 小 折本

註：藤原鎌足より大浦為則まで

古代御系譜 甲 5-100

写 1冊 半紙 仮和

註：藤原秀栄より津軽為信まで

御家系 甲 5-106

写 1冊 美濃 仮和(御日記方旧蔵)

註：大浦光信より津軽信明まで

津軽家譜草案(妙心院様御筆之写) 甲 5-96

明治 写 1冊 半紙 仮和

註：源家光より津軽信重(信寿)まで 妙心院(津軽信政)自筆本に依り小山内建麿の写本

古譜推歴 附御系図之巻(佐々木小太膳) 甲 5-97

乳井建福(貢)著

写 1冊 半紙 仮和

註：古譜推歴は宝暦5年(1755)乳井貢の著 御系図之巻は「小太膳記」の抄である 共に津軽家系図で前者は藤原秀栄より津軽信政まで 後者は藤原政信より津軽信義まで 佐々木小太膳は信政の近臣

新選津軽系譜(外題：御家系)(草稿本) 甲 5-101

藤田貞元著

明治5(1866)～11 写 4冊 半紙 仮和

系譜御尋御答書(文化9年4月大目付ヨリ御尋ニ付)

写 1冊 半紙 仮和

甲 5-98

註：文化9年(1812)津軽家系図について幕府より御尋十三ヶ条の御答書の控

御系図之儀ニ付公儀へ上申セシ書簡奉書 丙 17-1216

写 1帖 小 折本

註：文化9年(1812)始祖政信を藤原尚通の猶子と答申せるを幕府より指摘され再び奉答せる控

近衛殿御当家両統御系譜 甲 5-9

写 1冊 半紙 仮和

御両敬御統合調下書 甲 6-125

写 1冊 半紙 仮和

御両敬御統合・田安様御統書・御近親様御統合 甲 7-160

写(安政7年頃)1冊 半紙横 和

徳川家系図 甲 5-105

写 1冊 半紙 仮和

288.3 家伝 家史

弘武前鑑 甲 6-109

写 1冊 半紙横 仮和

註：明暦年代より享保年代までの武鑑より津軽氏の分のみ模写せるもの

公務年譜 甲 8-222

写 1冊 半紙半 仮和

註：津軽為信天正18年(1590)より寧親文化5年(1808)までの幕府公務年譜

津軽御先祖代々誌 甲 5-107

写(安永頃)1冊 美濃 仮和(御日記方旧蔵)

註：津軽信著まで

御代々様御法号 甲 6-129

明治写 1冊 半紙 仮和

瑞祥院御代御奉公申上候子孫名前次第 甲 7-175

天保5(1834)写 1冊 小(横) 仮和

註：文化3年(1806)瑞祥院(津軽為信)の二百回忌法事後子孫へ御能見物仰付られし際の調

瑞祥院様御代御奉公申上子孫当時御目見以下之面々

写 1冊 横長 仮和

甲 8-237

瑞祥院：津軽為信

高源院様御代御奉公申上候面々之子孫由緒取調帳併名前目録 文政頃(下沢保躬書入本) 甲 4-58

写 2冊 美濃 仮和

高源院：津軽信牧

桂光院様御代御奉公申上候面々之子孫由緒取調帳併名前目録 文政頃 甲 4-60

- 写 2冊 美濃 仮和
桂光院：津軽信義
- 西館元之進由緒書** 天保4年 甲 6-138
天保4(1833)写 1冊 半紙 仮和
- 添田岩五郎由緒書** 天保5年 甲 6-137
天保5(1834)写 1冊 半紙 仮和
- 溝江伝左衛門由緒書** 天保5年(1834) 甲 6-136
写 1冊 半紙 仮和
- 御家中由緒書**(森岡・足立・桜庭・櫛引・佐藤) 甲 4-56
写 1冊 美濃 仮和
註：森岡金吾 足立矢柄 桜庭力之進 櫛引左門 佐藤慶吉の由緒書 天保年間
- 傍島正郡家系** 甲 6-134
写 1冊 半紙 仮和
- 山本三郎左衛門由緒書** 甲 6-135
写 1冊(2冊合本)半紙 仮和
- 覚**(西館・傍島・岡田・兼平・梶川・佐田・滝川・金) 甲 6-141
写 1冊 半紙 仮和
註：西館軍兵衛 傍島太兵衛 岡田屋西三郎 兼平富之助 梶川謙太郎 佐田鞠負 滝川勝左衛門 金治兵衛の先祖書
- 覚**(福島・森岡) 甲 6-142
写 1冊 半紙 仮和
註：福島千之助森岡富太郎の先祖書 嘉永の頃
- 親類書** 天和2年 一町田斎(森貞) 甲 4-57
天和2年(1682)写 1冊 美濃 和
- 289 一個人の伝記**
- 高照宮御遺鑑** 卷1,2 渡部利容著 甲 11-310
写 1冊 半紙 仮和
註：津軽信政の德行録 延享元年(1744)の著
- 貞享規範** 森内繁富著 甲 3-25
嘉永4(1851)写 半紙 仮和
註：津軽信政の言行録 文化3年(1806)の著 上巻欠
- 明君要集録**(神君御一代御意書 孝公御一代御意書) 甲 5-90
(草稿本)藤田貞元編
写 2冊(合本1冊)半紙 仮和
註：神君(津軽信政)孝公(津軽信明)二代の言行録
- 信順公御行状記** 甲 4-44
写 1冊 半紙 仮和
註：津軽信順の行状記
- 御昇進御祝頂戴一条留** 天保9年 留方 丙 6-968
天保9(1838)写 半紙 仮和
註：津軽信順侍従昇進の節
- 安政五年若殿様四品御叙爵の申渡文之写** 丙 17-1222
写 1枚 18×49 一枚物
註：津軽承昭従四位昇叙
- 寛五郎様御年譜** 甲 7-196
明治4(1871)写 1冊 横小 仮和
寛五郎：津軽承昭
- ◇
- 藤田氏家記** 丙 18-1254
- 写 6冊 半紙 仮和
内容：第1冊 元禄12年(1699)～享保2年 第2冊 享保3年～同7年 第3冊 享保9～同12年 第4冊 享保13年 第5冊 享保16年 第6冊 享保20～元文元年(1736)
註：藤田権右衛門(貞愛)～八之丞(貞治)～伝蔵～伝八(貞治)の留書 虫食甚しい
- 〔藤田権左衛門〕家記** 明和元年～享和2年(1764～1802) 藤田権左衛門(貞庸)著 甲 7-203
写(自筆本)3冊 半紙 仮和
註：享和3年以後文化7年までは「公私覚書」と題して別にあり 勝田貞庸：初貞豊 貞等 又貞雄通称小三郎 後権左衛門(1751～1810)
- 公私覚書** 享和3年～文化7年(1803～1810) 藤田権左衛門(貞庸)著
写(自筆本)1冊 半紙半 仮和
註：家記と題する別冊に続くもの 家記の草稿
- 〔藤田権三郎〕家記** 寛政元年～文政10年(1789～1827) 甲 4-41
藤田権三郎(貞幹)著
写(自筆本)3冊 半紙 仮和
註：文政10年4月以後同12年11月までは「日新」と題して別にあり 藤田貞幹：斧三郎 斧弥 権三郎(1783～1829)
- 日新** 文政10年～同12年(1827～1829) 甲 9-277
藤田権三郎(貞幹)著
写(自筆本)3冊 半紙半 仮和
註：家記と題する別冊に続くもの 家記の草稿
- 〔藤田五郎兵衛〕家記** 天保12～弘化2年(1841～1845) 藤田五郎兵衛(貞固)著 甲 8-234

- 写 (自筆本) 1冊 半紙半 仮和
藤田貞固：初め五郎右権門のち五郎兵衛
- 松前詰日記** 藤田貞固著 丙 12-1100
安政6 (1859) 写 (自筆) 1冊 半紙 仮和
註：藤田五郎兵衛の安政5年3月～6年4月 (1858～1859) 間の松前詰の日記
- 平館勤中日記** 梧桐庵 (藤田貞固) 著 甲 5-69
万延2 (1861) 写 (自筆) 1冊 半紙 仮和
註：万延2年3月5日～同年9月13日
- 青森詰日記** 藤田五郎兵衛 (貞固) 甲 4-35
写 (自筆) 1冊 半紙 仮和
註：慶応3年3月～同4年3月 (1867～1868)
- 芦沼村山本惣四郎行状書写** 丙 7-996
寛政4 (1792) 写 1冊 半紙 仮和
註：篤農惣四郎の書上状写
- 赤石愛太郎敵討之一件** 嘉永7年 地方 丙 6-964
嘉永7 (1854) 写 1冊 半紙 仮和
- 290 地誌紀行**
- 291.1 東北地方**
- 東北風談** 肝付兼武著 甲 6-114
安政2 (1855) 写 1冊 半紙 仮和
註：薩藩人肝付氏嘉永6年 (1853) に遊歴せる東北国々の形勢兵の強弱富貧を記す
- 291.2 青森県**
- 津軽領道程帳** 承応2年 丙 3-896
承応2 (1653) 写 1冊 美濃 仮和
註：老町田軍兵衛唐牛三左衛門長山助左衛門の表記
- 御領分三庄道範** (高照御遺鑑抜書) 甲 4-34
明治3 (1870) 写 (藤田貞元) 1冊 半紙 仮和
註：津軽領内の道筋里程
- 陸奥国津軽領変地其外相改之候目録** 丙 8-1020
元禄14 (1701) 写 1冊 (2部) 半紙 仮和
註：当年国絵図御改につき書上の帖控 同文2部合綴
- 藩律** 寛政4年 甲 7-182
寛政4 (1792) 写 1冊 横小 仮和
註：弘藩名数考とほぼ同様の地誌である
- 藩律** 甲 8-267
文化11 (1814) 写 1冊 半紙半 和
- 弘藩名数考併行程記** 甲 5-68
写 (寛政頃) 1冊 半紙 仮和
- 弘藩実員** 甲 5-67
写 1冊 半紙 仮和
註：弘藩名数考の抄?
- 御見分御道筋御休泊附併村高里数調帳** 丙 8-1030
寛政5 (1793) 写 1冊 半紙 仮和
註：津軽領街道通の分
- 陸奥国津軽郡村仮名附帳** 享和3年 (1803) 乙 6-471
文化2 (1805) 写 1冊 美濃 仮和
- 陸奥国津軽郡村仮名附帳** (長勝寺領) 乙 6-470
文化元 (1804) 写 1冊 美濃 和
- 享和三年郷村仮名附帳公辺御書出之節江戸表調違併村名違之儀ニ付往復書簡留** 文化2年 (1805) 乙 5-447
写 1冊 半紙 仮和
- 御家中町割牒** 甲 6-108
写 1冊 半紙 仮和
註：文政頃?
- 十三町家別軒数調書** 天保2年 甲 7-172
天保2 (1831) 1冊 横小 仮和
- 村日記** 三上仁左衛門 甲 8-224
天保6 (1835) 写 1冊 半紙半 仮和
註：組別に村名を列記し上中下の格付を附記す
- 村目録** 丙 3-885
天保9 (1838) 写 1冊 美濃 仮和
註：文化5年 (1808) に10万石に高直し以後の幕府へ提出した領内村寄目録の控
- 大間越より狩場沢迄海岸村々里数調帳** 丙 8-1032
地方備
嘉永4 (1851) 写 1冊 半紙 仮和
註：御用掛三奉行より書上のもの
- 大間越より狩場沢迄海岸村々里数調帳** 同海岸浅深共 丙 15-1167
嘉永4年 (1851) 松前方
写 1冊 半紙 仮和
- 御郡内海岸ヨリ弘前迄里数併海底浅深調** 甲 8-273
写 1冊 半紙半 仮和 (貴田稲城旧蔵)
註：文久年間御備方の調
- 郷村仮名附帳** (津軽黒石領) 乙 5-448
写 1冊 半紙 仮和

諸組村寄帳 明治2年 地方 明治2(1869)写 1冊 横長 仮和	甲 7-200	賀田城(為信公居之) 明治16(1883)写(貴田稲城)1枚 註:川越石太郎所有図により写 大浦城図とも云う	丙 17-1207	291.3 北海道 樺太 千島	蝦夷地海陸道法図説(図欠) 貴田十郎右衛門(惟邦)著 (貴田旧蔵本) 丙 14-1151 写(文化4年序)1冊 半紙 和
里程調 写(明治初頃)1冊 横長 仮和	甲 7-202	堀越城(瑞祥公文禄中居之) 明治16(1883)写(貴田稲城)1枚 註:瑞祥公は津軽為信 川越石太郎所有図により写	丙 17-1206		従松前東地通ソウヤ迄行程 松前詰勘定方 丙 12-1080 文化7(1810)写 1冊 半紙 和 註:松前ヨリ東地通り西蝦夷地ソウヤ迄の行程
平内村々往還里数調 写 1冊 半紙 仮和 註:狩場沢より小豆沢まで	丙 8-1031	亀ヶ岡城(信政公築之) 写(貴田稲城)1枚 28×39 一枚物	丙 17-1208		松前紀行 安政2年(1855) 平尾魯仙(亮致)著 写 1冊 半紙 仮和 甲 12-356
青森御下浜津軽坂通御道書 写 1冊 横小 仮和	甲 7-181	横内村旧館図 写(貴田稲城)1枚 27×39 一枚物	丙 17-1210		北蝦夷地併リイシリ島風土書 笠原八郎兵衛(皆当)著 写 1冊 半紙 仮和 丙 16-1176 註:笠原八郎兵衛が樺太の様子を聞き尋の上松前御用懸へ報告せるもの
御通行御道筋書(4月15日) 写 1冊 横長 仮和 註:芦蒔村御出立枯木平村白沢村大秋村を通り国吉村御泊 年代不明	丙 17-1232	〔津軽伊織〕御領所四ヶ村惣絵図併同馬場尻村ト御当領馬場尻村境図 元禄3(1690)写 2鋪 畳物	丙 17-1252		チンフカ諸島図(寛政十二年近藤重蔵) 丙 17-1203 写 1枚 20×40 一枚物 註:千島国新知郡
〈地図 絵図〉		奥州津軽之図 文化13(1816)写 1鋪 畳物	丙 17-1252		
藤崎村古城図(文政12年(1829)郡奉行間山鉄五郎廻郷之節差出図) 明治20(1887)写(貴田稲城)1鋪 畳物	丙 17-1198	陸奥国津軽郡田舎庄油川組浪館村之図 明治3年 庄屋己之松 明治3(1870)写 1鋪 畳物	丙 17-1247		
浪岡城図 写(貴田稲城)1鋪 畳物	丙 17-1205	陸奥国津軽郡田舎庄油川組滝村之図 庄屋久兵衛 明治3(1870)写 1鋪 畳物	丙 17-1194		
石河城(南部高信居之) 明治16(1883)写(貴田稲城)1枚 註:大仏ヶ鼻とも云う	丙 17-1204	十三湖之図 写 1鋪 畳物	丙 17-1201		
種里古城(長勝公居城) 写(貴田稲城)1枚 28×39 一枚物	丙 17-1209	高岡之図 写 1鋪 畳物	丙 17-1197		

300 社会科学

304 論文 雑記 (建白)

毛内宜応存寄書 (天明凶荒善後策甲) 毛内宜応 (茂肅) 著
写 1冊 半紙 仮和 甲 6-127
註：天明4年(1784)毛内宜応藩士土着の意見書

管見策 手塚玄通 (子徹) 著 甲 6-116
写 1冊 半紙 仮和
註：寛政年中の意見書

322 政治 行政 法制 (藩政)

〈勤仕 規式一般〉

覚 (延宝二年勘定奉行へ仰付) 丙 17-1246
延宝2(1674)写 1帖 小 折本
註：勘定奉行の勤務方に関する覚

諸式要集 乙 15-771
貞享5(1688)写 1冊 半紙倍 仮和
註：家中藩士諸式の服務要領定

御用勤方之格式 乙 15-772
貞享5(1688)写 1冊 半紙倍 仮和
註：家老以下諸役の勤務心得

元禄十四年二月十一日被仰渡之覚 甲 7-186
元禄14(1701)写 1帖 小 折本
註：家老以下諸役への勤務方に関するもの

御在府御用格 甲 7-161
写 1冊 半紙 仮和
註：正徳～延享年間の諸務先例

覚 甲 8-272
寛保元(1741)写 1冊 半紙半 仮和
註：目付役心得

格帳 寛保2年(1742)改 甲 9-292
宝暦2(1752)写 1冊 美濃半 仮和
註：家老付設諸格式

御当家従御先代御定目御触書等之抄書 甲 6-145
写 1冊 半紙 仮和
註：信寧公代(宝暦頃)の抄

雑集 4巻 甲 7-153
写 2冊 半紙半(横) 和
註：御意御条目触書術定書を編した目付役勤め方である 明和頃

御目付当番勤方書 甲 8-221
写(安政頃)1冊 半紙半 和

御定之覚 甲 9-287
写(寛政頃)1冊 美濃 仮和

寛政集 地巻 甲 8-226
写 1冊 半紙半 仮和
註：目付役勤務心得書

御次第方留覚 甲 8-216
文化14(1817)写 1冊 半紙半 仮和
註：御次第方御用懸の勤め方

文化集 甲 8-242
写 16冊 半紙半 仮和
内容：第1～5冊 御在国御不断 第6冊 御着城之式

第7冊 御在国正月四日ヨリ廿八日迄之式 第8冊 御留守年頭三ヶ日式 第9冊 御留主御不断之二 第10冊 変之節覚書(不時勤覚書宝暦之頃御付目勤之覚留記) 第11冊 御留守当番夜中取扱 第12冊 御先詰 第13冊 諸断達書 第14冊 御留主従正月四口同廿八日迄之式 第15冊 諸御礼 第16冊 御在国御煤取儺名之式歳暮御礼大晦日之式御松飾併引納
註：御目付役勤務心得並先例

文政集 甲 8-227
写 6冊 半紙半 仮和
内容：第1冊 御用番文庫二有之候御触書併申合帳要用之部抜書 第2冊 御留守 第3冊 御留守留諸御礼初而御目見 第4冊 御門々併御櫓御土蔵其外御郭中諸廉預り定格 第5冊 御家老中為御名代於星場炮術御見分之留 第6冊 芙蓉之間御廊下詰
註：諸勤務心得及先例

御定法古格 甲 6-117
写 2冊 半紙 和
註：工藤行一の編纂? 文政頃

御用之格覚 2巻 増補2巻 甲 9-283
写(文政頃)4冊 美濃半 和

手鏡 甲 7-189
天保6(1835)写 1冊 横小 和
註：湯治 幕 雪舟 駕籠 養子 御役免 隠居願 御目見 末期 足袋 御紋形 縁組 御役禄定等の諸定め諸方式

御次第書 甲 7-193
嘉永4(1851)写 1冊 横小 仮和
内容：一列次第 黒石家中一列次第 諸御礼廻併礼御定 御剪紙御請堅之部横之部

秘要録 1 甲 5-73

写 (文久頃) 1冊 半紙 仮和 (御日記方旧蔵)
 内容: 公義御代様之事 御家御代々様之事 武家法度之事 日本惣高人数高寺数等之事 御国高之事 正月御鏡式之事 御上下之節御目見出所之事 御切紙之事 御役替御礼之事 御家中子弟序順之事 御請豎之事 同横之事 大寄合以上御請之事

御定書 甲 9-282

写 1冊 美濃 仮和 (御日記方旧蔵)
 註: 各書類の扱方 奉伺候部 言上之部 御家老聞届之部 御家老承届之部 御用人聞届之部 御用人承届之部 と仕分けせるもの

手鑑 甲 9-293

写 1冊 美濃半 仮和
 註: 諸心得

御印押方併御家老中ヨリ御用物受取方 甲 8-259

写 1冊 半紙半 和

御目付之節心得 甲 7-170

写 1帖 折本 小

御長柄奉行勤方併組取扱之覚 甲 9-290

写 1冊 美濃半 仮和

諸手足軽頭御城勤記 甲 7-191

写 1冊 横小 仮和
 註: 先例及心得を記す

諸手足軽頭同役御役人之節心得書 甲 8-274

文政6 (1823) 写 1冊 半紙半 仮和

勘定奉行文通式 甲 3-26

写 1冊 半紙 仮和
 註: 文通の文例様式

江戸三御家敷御門御出入御改之条目 天明3年 (1783)

写 1冊 半紙 仮和 甲 5-83
 註: 御上屋敷併柳原柳島御屋敷門番の取扱方の定

〈礼廻〉

諸御礼式 甲 8-215

写 (宝暦頃) 1冊 半紙半 仮和

諸御礼廻り服忌令 甲 7-185

天保2 (1831) 写 1冊 横小 仮和

御礼廻 甲 7-184

写 1冊 横小 和
 註: 礼廻併諸願書の様式

諸御礼雑集 甲 8-260

写 1冊 半紙半 仮和

〈誓詞〉

誓詞前書 3巻 乙 15-773

写 3冊 半紙倍 仮和
 註: 諸役を仰付られるときの起請文前書の様式集

登城・誓詞 甲 8-219

写 (天保頃) 1冊 半紙半 仮和

江戸御休息御用達御番人誓詞扣 甲 6-126

安政2 (1855) 写 1冊 半紙 仮和

〈末期〉

末期一件 丙 10-1050

写 1冊 半紙 仮和
 註: 文政弘化元治の一件書類

末期判元見届願之節振向ヶ条書ニ付御用所江御間合之表一件

天保15年 留方取扱 丙 6-970
 天保15 (1844) 写 1冊 半紙 仮和

小笠原彦一末期一件併伊藤吉太郎於大坂表ニ病死一件留方

嘉永元 (1848) 写 1冊 半紙 仮和 丙 6-971

末期御用留 甲 8-268

写 1冊 半紙半 仮和

〈職制〉

付人之覚 貞享2年 丙 17-1230

貞享2 (1685) 写 1枚 一枚物
 註: 家老用人大目付の付人に関する定

妙心院様代御家中一例御次第 元禄元年 (1688)

写 1冊 横小 仮和 甲 7-176
 妙心院: 津軽信政

御目見以下次第 甲 8-262

寛政7 (1795) 写 1冊 横長 仮和

一列御次第横帳 丙 10-1048

写 1冊 横長 仮和
 註: 文化14 (1817) 以前に書かれたもの

諸組足軽人数御定書 嘉永7年 諸渡方 甲 7-163

嘉永7年 (1854) 写 1冊 横長 仮和

御目見以上御次第席附 写 1冊 横小 仮和	甲 7-188	小頭勤式帳 文化2年 文化2(1805)写 1冊 半紙 仮和 註：箱館に於ける小頭の勤務要領及文化3年同所よりの勤中報告	丙 8-1009	並にその記録
大番頭御人数調 附大番頭御人数御武器調 写 1冊 半紙 仮和	丙 8-1012	勤式 松前方 文化3(1806)写 1冊 半紙 仮和 往：箱館奉行所に於ける勤務諸心得	丙 14-1153	松前両所御渡格帳 丙 12-1095 万延2(1861)写 1冊 半紙 仮和 註：松前詰合物頭へ仰付られた諸規式覚を検使三浦八三郎が書写したもの
御目見以下改正一列 写 1冊 美濃半 仮和 註：明治2年(1869)の改正職制	甲 9-288	松前諸場所詰取扱定式 文化8(1811)写 1冊 半紙 仮和	丙 11-1067	勤式 函館御留守居方 丙 14-1154 万延2(1861)写 1冊 半紙 仮和
〈刑律〉		松前方年中行事 文化8年(1811)工藤左衛門 写 1冊 半紙 仮和 註：文化8年北蝦夷地ソウヤ江差松前詰合の節松前御用懸工藤左衛門の編纂したもの	丙 11-1062	箱館定式帳 丙 14-1128 写 1冊 半紙 仮和 註：箱館詰の諸手当其他色々の定書
御刑罰御定 安永3年(1774) 安永4(1775)写 1冊 美濃 仮和	甲 4-64	松前勤番年中行事 文化13年 写 1冊 半紙 仮和 註：松前における時服着用の次第毎月の行事につき勤め方の心得定書	丙 11-1060	浦賀取扱年中定式臨時定式調扣 丙 5-933 嘉永7年(1854)松前方 安政2(1855)1冊 半紙 仮和 註：立花飛騨守様御留守居矢野伝兵衛より借用写とあり他藩の浦賀取扱振りを参考のためか
寛政律 甲 5-85 慶応3(1867)写 1冊 半紙 和 註：寛政律は寛政3年牧野左次郎(恒貞)総裁赤石安右衛門(行建)菊池寛司(正礼)伴才助(建伊)松田常蔵(正卿)等主として編纂し寛政9年(1797)に成る本書は文化10年頃までの補記がある		松前勤番所年中諸規式扱心得帳 文化13(1816)写 1冊 半紙 仮和	丙 11-1065	〈藩主湯治 発駕(用度用品)〉
〈防火〉		松前勤番所年中諸規式扱心得帳 文化13(1816)写 1冊 半紙 仮和	丙 11-1066	御用留(文政九年温湯江御湯治之一件) 乙 11-627 諸渡方 文化9(1812)写 1冊 半紙 仮和
出火防方之法 文化5年 文化5(1808)写 1冊 半紙 仮和 註：陣中出火の節の消防要領定	丙 8-1010	松前詰御定式 安政5年 写 1冊 半紙 仮和 註：安政5年(1858)御用所から蝦夷地勤番の服務心得としてスツツ詰のものに渡した覚書	丙 11-1064	温湯江御出二付御人数藤崎村御昼賄書上帳 文化9年 文化9(1812)写 1冊 横長 仮和 甲 7-213
御発駕以後出火之節御定 写 1冊 横小 仮和 註：警固の部署割	甲 7-197	松前詰留守跡不幸之有拜借割合定 松前方 安政5(1858)写 1冊 半紙 仮和 註：文化年中松前詰留守宅にて不幸の際の借金の割合定	丙 13-1103	御湯治帳(文久二年承烈公様大鱈江)諸渡方 乙 7-485 文久2(1862)写 1冊 半紙 仮和 承烈公：津軽承昭
〈松前勤番規式〉				御湯治御入用惣調帳 文久2年 乙 7-486 文久2(1862)写 1冊 半紙 仮和

- 註 御供勘定人相馬小三郎の調帳
- 大鱈表諸書付併御湯治中諸色引入留帳 文久2年
文久2(1862)写 1冊 半紙 仮和 乙7-487
註：御供勘定人相馬小三郎の留帳
- 殿様大鱈御湯治ニ付諸書付併引入帳 元治元年 諸渡方
元治元(1864)写 1冊 半紙 仮和 乙7-488
- 御発駕書付留 明治2年 御発駕方 丙8-1037
明治2(1869)写 1冊 半紙 仮和
附：御登京御供兵隊壺小队御人数併同御武器員数調
- 〈諸流方定(用度 備品)〉
- 在々に而賄帳 延宝3年 丙4-906
延宝3(1675)写 1冊 美濃 仮和
註：御用にて在々へ罷出の節御賄下される定 勘定所備付之元帳
- 碇ヶ関御賄御入用定 延宝6年 丙4-903
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
註：碇ヶ関に於ける通行御家中の賄の定 勘定所備付元帳
- 御台所併青森鱈ヶ沢御味噌煮合定・諸職人御賄定・諸職人
手間賃定 延宝6年 丙4-921
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
註：勘定所備付の元帳
- 御台所檜物渡方定・御檜物屋直渡方定 延宝6年
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和 丙4-916
註：勘定所備付の元帳
- 御登諸色御入用定 延宝6年 丙4-907
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
- 註 勘定所備付の元帳
- 所々菟渡方定 延宝6年 丙4-918
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
註：勘定所備付の元帳 個々番所そのほかへの渡方
- 御台所より方々江菟渡方定 延宝6年 丙4-919
延宝6(1678)写 1冊 美談 仮和
註：勘定所備付の元帳 城内諸建物への渡方
- 御馬屋諸色御入用定 延宝6年 丙4-914
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
註：勘定所備付の元帳
- 相定御祝儀万御入用定 下 延宝6年 丙4-913
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
註：年中行事に於ける祝物諸品入用定 勘定所備付の元帳
- 御台所方々御酒渡方定・方々御肴渡方定 延宝6年
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和 丙4-911
註：年中祝日に於ける御酒御肴の渡方の定 勘定所備付の元帳
- 御町奉行より所々酒渡方定・浦々酒渡方定 延宝6年
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和 丙4-912
註：年中祝日に於ける御酒渡方の定 勘定備付元帳
- 所々御門松御入用定 延宝6年 丙4-909
延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和
註：勘定所備付の元帳
- 御松飾御定帳 天保9年(1838) 諸渡方 丙4-924
天保12(1841)写 1冊 美濃 仮和
- 御松飾帳 文久元年 勘定方 丙4-925
- 文久元(1861)写 1冊 美濃 仮和
註：函館陣屋に於ける松飾の定
- 諸色留帳 天和2年(1682) 乙11-620
弘化4(1847)写 1冊 半紙 仮和
註：間宮求罵佐藤新五左衛門越後高田検地にての入用品の留帳の写
- 三御馬屋諸品渡御定帳 寛政2年(1790) 乙12-690
寛政3(1791)写 1冊 美濃 仮和
- 年中御定物帳(御在国中共) 受払御坊主取扱 乙9-561
寛政6(1794)写 3冊 半紙 仮和
- 御勘定所御定帳 寛政8年 乙10-616
寛政8(1796)写 1冊 美濃 仮和
註：勘定所渡の諸品の定
- 学校食堂御道具帳 寛政8年 丙3-898
寛政8(1796)写 1冊 美濃 仮和
- 人別調方御定渡帳 丙9-1039
写 1冊 半紙 仮和
註：人別調方及御広敷学校御賄方の入用筆墨用紙等の渡定書 寛政9年頃(1797)
- 三御馬屋諸色御定帳 寛政10年 御公務方 乙12-691
寛政10(1798)写 1冊 美濃 仮和
- 〔諸道具諸備品調帳〕 御本城廻4巻 二三四御郭廻1巻
弘前廻2巻 乙14-718
写 7冊 半紙 仮和
註：寛政11年(1799)の調改めのもの その後の追記あり
- 御城郭諸番所外諸色渡御定 丙5-928

写 1冊 半紙 仮和 註：寛政頃の諸物品渡の定		青森御陣屋部屋々々諸器物御元帳 元治元年(1864) 写 1冊 半紙 仮和 丙 14-1130	御坊主方年中諸色御定物帳(三步一引共) 写 2冊 半紙 仮和 乙 9-559
御台所道具帳 丙 6-976 寛政11(1799)写 1冊 半紙 仮和 註：城中台所道具調帳		青森御陣屋部屋々々薪炭水油諸色渡御元帳 元治元年 写 1冊 半紙 仮和 丙 14-1131	覚(御坊主小頭御用立方方覚田畑相改覚) 写 1冊 横長 仮和 甲 7-214
御勘定所器物調帳 寛政12年 丙 7-994 寛政12(1800)写 1冊 半紙 仮和		青森御陣屋障子紙元帳 元治元年 丙 14-1053 元治元(1864)写 1冊 半紙 仮和	〈知行 給禄 手当〉
在方諸番所 丙 10-1055 寛政12(1800)写 1冊 半紙 仮和 註：諸山杣取方役所諸脇道番所土揚勤番所などの備付道具調書		京都御屋敷御備武器併諸道具類七月十九日兵火ニテ焼失取調之覚 元治元年 乙 9-576 元治元(1864)写 1冊 半紙 仮和	京江戸にて御合力金併諸扶持方帳 延宝4年 丙 4-905 延宝4(1676)写 1冊 美濃 仮和 註：勘定所備付の元帳
諸渡帳 乙 18-850 写 1冊 美濃 仮和 註：文化年間頃の紙筆墨炭等諸品の諸役所への渡定帳		江戸常府御国江引越ニ付書付留併諸色引入帳 慶応3年 丙 2-874 諸渡方 慶応3(1867)写 1冊 半紙 仮和	江戸御扶持方定・江戸御家中馬扶持定 丙 4-904 延宝6年 延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和 註：勘定所備付の元帳
黒石様御賄米料渡永代帳 文化5年 諸渡方 丙 6-963 写 1冊 半紙 仮和 註：文化5年～明治2年(1808～1869)間の黒石藩主接招の諸品渡留控		大小御賃渡帳 慶応2年 御公務方 丙 6-965 写 1冊 半紙 仮和 註：慶応2年～明治2年(1866～1869)間大小刀及陣笠の調達及賃渡一件	出金之定 延宝6年 丙 4-915 延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和 註：京都江戸その他へ登り下り逗留の渡金定 勘定所備付の元帳
備人夫元帳 丙 7-997 写 1冊 半紙 仮和 註：天保11年～嘉永5年(1840～1852)間		薬王院詰御用留 明治2年 函式方 甲 11-331 明治2(1869)写 1冊 半紙 仮和 註：朝廷へ差出たための御国絵図認めの際の事務書類	御定帳 宝暦5年(1755)知行方 丙 10-1058 写 1冊 美濃 仮和 註：宝暦5～7年間の知行扶持その他諸給与の渡方定
御台所御用 天保12年 公務方 丙 6-977 写 1冊 半紙 仮和 註：天保12年～元治2年(1841～1865)間城内台所入用の諸品受払留		揚屋併牢屋諸渡帳 明治2,3年 用度方 乙 13-699 明治2,3(1869～70)写 1冊 半紙 仮和	御家中御切米之覚 乙 18-856 写 1冊 美濃 仮和 註：宝暦5～寛政6年(1755～1794)間の家中諸給与渡方についての伺及定
組々食事器物併文庫矢立類留 弘化4年 丙 6-975 弘化4(1847)写 1冊 半紙 仮和		作事方御渡御道具帳 甲 7-199 写 1冊 横長 仮和	組頭中者頭秋田久保田へ御使者一件 宝暦5年 乙 18-855 宝暦5(1755)1冊 美濃 仮和 註：御馬廻組頭喜多村監物秋田へ使者として行く際の金

品渡覚		細目 (勘定奉行)		文政8 (1825) 天保10 (1839) 写 2冊 半紙 和 註：知行御書出の写しを差出させた御触留
知行地方割窺留	丙 1-864	御手当定帳 文化9年	乙 15-741	覚 弘化2年 丙 2-875 弘化2 (1845) 写 1冊 半紙 仮和 註：非常三拾騎一備渡海の際米錢渡方の定
宝暦8 (1758) 写 1冊 美濃 仮和		文化9 (1812) 写 1冊 半紙 仮和 註：蝦夷地併に北蝦夷地詰の手当定書		
在々御伝馬宿継之者併常役之者共江被下金本帳	丙 3-893	御手当定帳 文化9年	乙 15-742	定式 箱館詰勘定方 丙 4-926 安政3 (1856) 写 1冊 美濃 仮和 註：蝦夷地に於ける支給金品の定
宝暦11年 御渡方		文化9 (1812) 写 1冊 半紙 仮和 註：蝦夷地併に北蝦夷地詰の手当定書		
宝暦11 (1761) 写 1冊 美濃 仮和		御手当定帳 文化9年	乙 15-746	覚 甲 6-139 写 1冊 半紙 仮和 註：三厩詰出立諸手当の覚
註：御伝馬宿継併継飛脚渡守相勤候者共御手当金銭御定 常役之者共江被下金御定		文化9 (1812) 写 1冊 美濃 仮和 註：北蝦夷地併に夷蝦夷地詰の手当定及び支給細目		
壁書扣留	丙 7-998	御手当定帳 文化11年	乙 15-747	御検見御検地御手当留 元治元年 地方 乙 15-737 元治元 (1864) 写 1冊 半紙 仮和
文化13 (1816) 写 1冊 半紙 仮和		文化11 (1814) 写 1冊 美濃 仮和 註：ソウヤ併北蝦夷地詰の手当定		
註：安永4年 (1775) 改めの諸御礼順司進物附定格及 給禄支給の定		要記秘鑑 抜書 甲 5-71 写 2冊 半紙 仮和 (藤田貞元旧蔵) 内容：武器総調 (文化7年) 御目見以上以下御給禄調 (文化6年)		御定帳 丙 9-1038 写 1冊 半紙 仮和 註：明治2年 (1869) 頃東京京都警衛のための派兵に 伴う諸給金品の留書
地方割御用留 寛政7年	乙 11-619	御国御家中江戸詰合中御扶持方御定併江戸表より上方登之 節諸渡物之御定帳 文政9年 御公務方 丙 3-899 文政19 (1826) 写 1冊 美濃 仮和		路用御定帳 丙 10-1059 明治3 (1870) 写 1紙 半紙倍 仮和 註：明治3年御国より東京京都までの路用定書
寛政7 (1795) 写 1冊 半紙 仮和		知行御切米方取扱向 勘定奉行 丙 7-987 文化13 (1816) 写 1冊 半紙 仮和 註：文化10年及同12年の廻し状の控		知行俵子金給相当調 (江戸常府) 嘉永5年 (御国知行方推考) 嘉永5 (1852) 写 1冊 半紙 仮和 乙 9-556
註：知行地方割の御用留		給地地方割御定書 文政2年 (1819) 乙 10-615 写 1冊 美濃 仮和		知行俵子金給相当書 (六ツ成) 乙 9-554 写 1冊 半紙 仮和
詰合諸渡御定帳 文化2年	乙 11-617	知行御書出頂戴御触留 乙 7-491		知行俵子金給相当書 (六ツ成) 乙 9-555 写 1冊 半紙 仮和
文化2 (1805) 写 1冊 美濃 仮和				
註：勤務地出立手当等の渡方				
御手当帳	乙 15-743			
文化5 (1808) 写 1冊 半紙 仮和				
註：文化5年士大将森岡金吾蝦夷地高島詰の際の手当				
割合直御手当定帳	乙 15-744			
文化6 (1809) 写 1冊 半紙 仮和				
註：松前5ヶ所北蝦夷地宗谷リイシリ詰手当				
御手当定帳 文化6年	乙 15-745			
文化6 (1809) 写 1冊 美濃 仮和				
註：北蝦夷地併蝦夷地詰の手当定 附文化9年手当の支給				

知行俵子金給相当帳 写 1冊 横小 仮和	甲 7-165	註：材木の値段定 勘定所備付の元帳	御本当染直段帳 安政2年 松前方 安政2(1855)写 1冊 半紙倍 仮和 註：御用染屋4名の書上	乙 13-713
332 経済史 事情				
取引御定法書 文政8年(1828) 明治写 1冊 半紙 仮和	甲 5-82	御膳酒直段御定法 寛延4年 寛延4(1751)写 1冊 美濃 仮和 合綴：御膳酒御直段之儀(天保7年)	御用細工御本当御直段帳 安政2年 松前方 安政2(1855)写 1冊 半紙倍 仮和 註：桶屋宮本太兵衛宮本嘉右衛門の書上	乙 13-705
家屋敷売買券 慶応3年 慶応3(1867)写 1枚 31×82 一枚物	丙 17-1219	直段書 宝暦9年 宝暦9(1759)写 1冊 美濃 仮和 註：宝暦9年以後の追記あり	御用御細工物諸品直段書 安政2年 松前方 安政2(1855)写 1冊 半紙倍 仮和 註：折登儀兵衛の書上	乙 13-711
337 貨幣 通貨(物価)				
[天保年間通用札](銭五分 宮崎八十吉預手形) 天保8(1837)写 3枚	丙 17-1218	御菓子御本当帳 明和3年 明和3(1766)写 1冊 美濃 仮和 註：菓子名と値段をいろは順に記す 福井和泉書上	御鉄炮金具御本当帳 安政3年 松前方 安政3(1856)写 1冊 半紙倍 仮和 註：鉄炮師4人の書上	乙 13-709
高岡御神領米御買入二付年々一番相場留帳附年々金価銭価 共 地方 写 1冊 半紙 仮和 註：一番相場は宝暦4年～慶応3年(1754～1867)まで 金価銭価は寛文5年～明治2年(1665～1869)まで	甲 12-351	菓子直段帳 写 1冊 半紙 仮和	御本当帳(表具用仕賃系代共定) 安政3年 松前方 安政3(1856)写 1冊 半紙倍 仮和 註：虎屋彦三郎の書上	乙 13-708
◇		諸材御払直段帳 文化6年 御山方 文化6(1809)写 1冊 半紙倍 仮和	水能御本当帳 文久2(1862)写 1冊 半紙 仮和 註：水能屋喜太郎同要助書上の「しの」(籾) 値段見積	丙 10-1047
諸役銀定・万値段物定 延宝3年 延宝3(1675)写 1冊 美濃 仮和 註：勘定所備付の元帳	丙 4-922	材木直段帳 天保3年 勘定所山方 天保3(1832)写 1冊 半紙倍 仮和	御用桶類御本当御直段帳 元治元年 元治元(1864)写 1冊 半紙倍 仮和 註：宮本太兵衛 宮本嘉右衛門の書上	乙 13-706
諸材木山方沖払直段定 延宝3年 延宝3(1675)写 1冊 半紙倍 仮和 註：十三より三世寺迄登諸材木運賃も記入あり	乙 13-715	三御馬屋御馬具積書御本帳 天保11年 天保11(1840)写 1冊 半紙 仮和 註：村上己之吉の御馬具製作見積書	御用細工御本当御直段帳 慶応2年 慶応2(1866)写 1冊 半紙倍 仮和 註：桶屋宮本太兵衛 宮本嘉右衛門の書上	乙 13-710
諸材木問屋入付定 延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和	丙 4-920	御鉄炮金具直段附 天保12年 天保12(1川)写 1冊 美濃 仮和 註：鎌田長蔵等4名の書上	御本当荒物直段帳 慶応4年 慶応4(1868)写 1冊 半紙倍 仮和 註：紙屋半蔵の書上	乙 13-714
		諸色直段帳 写 1冊 半紙 仮和 註：弘化元年(1844) 三国屋伝三郎書上の呉服類値段帳		

御桐油類諸色御本当直段帳 明治2年 明治2(1869)写 1冊 美濃 仮和 註：御用合羽屋4名の書上	乙 13-704	〔陸奥国津軽郡〕郷村高辻帳御書出一件留(正保二年ヨリ天保三年迄) 写(明治初)1冊 半紙倍 仮和 註：天保3年迄とあれど明治元年までの公儀書上の控	乙 3-420	御朱印御改ニ付御領知郷村帳覚書 宝永8年(1711) 長尾只方衛門 写 1冊 半紙 仮和 註：長尾只右衛門御朱印御用勤の時の記録	乙 5-452
御陣笠積書 明治2年 明治2(1869)写 1冊 半紙 仮和 註：佐藤熊四郎書上の値段見積	丙 6-972	陸奥国津軽郡高辻村々牒 寛文4年(1664) 写 1冊 美濃 和	乙 6-466	陸奥国津軽郡伊達郡領知田畑町歩人数帳 享保6(1721) 文化4(1807)写 1冊 半紙 仮和	乙 12-629
御用鍋釜御本当直段帳 明治4年 明治4(1871)写 1冊 半紙 仮和 註：坂本久右衛門の書上	乙 13-702	陸奥国津軽郡高辻村々帳 貞享元年 貞享元(1684)写 1冊 半紙倍 仮和	乙 6-473	陸奥国津軽郡郷村高辻帳 享保9年(1724) 天保5(1834)写 1冊 美濃 仮和	乙 3-398
御膳穀物代米定 地方 写 1冊 半紙 仮和	乙 5-930	陸奥国津軽郡高辻村々帳 貞享元年 貞享元(1684)写 1冊 半紙倍 仮和	乙 6-474	陸奥国津軽郡郷村高辻牒 延享3年(1746) 写 1冊 美濃 仮和	乙 3-399
340 財政					
国土分割 写 1冊 半紙 仮和 内容：宦禄(乳井貢著)税法談(一戸昌号著)	甲 3-29	陸奥国津軽郡郷村帳 貞享元年 貞享元(1684)写 1冊 半紙倍 仮和	乙 6-475	御郡中郷村位付帳 宝暦9年(1759) 写 1冊 美濃 仮和	乙 6-469
分録規矩 写 1冊 半紙 仮和 註：乳井貢の著書?	丙 10-1054	陸奥国津軽郡郷村帳 貞享元年(1684) 享保11(1726)写 1冊 美濃 和	乙 6-472	陸奥国津軽郡之内郷村高帳 安永7年ヨリ天明2年迄 (1778~1782) 寛政5(1793)写 1冊 美濃 仮和	乙 5-457 乙
349 地方財政(貢租)					
検地帳は農業経済(611)を見よ		御郡中御検地高目録 貞享3(1686)写 1帖 小 折本	丙 17-1220	陸奥国津軽郡之内郷村高帳 安永7年ヨリ天明2年迄 (1778~1782) 寛政5(1793)写 1冊 美濃 仮和	乙 5-459 乙
〈郷村高辻〉		陸奥国津軽領郷帳 元禄14年(1701) 写 1冊 美濃 和	乙 6-467	陸奥国津軽郡之内郷村高帳 天明7年ヨリ寛政3年迄 (1787~1791) 寛政5(1793)写 1冊 美濃 仮和	乙 5-456 乙
知行高之帳 写 1冊 半紙 仮和 註：正保2年(1645)~天明7年(1787)間御朱印御改の節書上の領内高及村数の控書	丙 1-872	陸奥国津軽領郷帳 元禄14年(1701) 天保5(1834)写 1冊 美濃 和	乙 6-468	陸奥国津軽郡之内郷村高帳 天明7年ヨリ寛政3年迄 (1787~1791) 寛政5(1793)写 1冊 美濃 仮和	乙 5-458 乙
		陸奥国津軽郡郷村高辻牒 宝永8年(1711) 写 1冊 美濃 仮和	乙 3-400		

- 陸奥国津軽郡之内郷村高帳 天明7年ヨリ寛政3年迄
(1787～1791) 乙5-455 乙
寛政5(1793)写1冊 半紙 仮和
- 御郡中郷村位付帳(津軽郡)文化8年 乙3-421
文化8(1811)写1冊 半紙倍 仮和
- 陸奥国津軽郡同伊達郡之内郷村高帳(天保三年差出書式)
写1冊 半紙 仮和 乙6-465
- 陸奥国津軽郡一円伊達郡之内郷村高帳 天保5年
天保5(1834)写1冊 半紙 仮和 乙6-460
- 陸奥国津軽郡一円伊達郡之内郷村高帳 天保5年
写1冊 半紙 仮和 乙6-459
- 陸奥国之内領知郷村高辻帳 天保9年(1838) 乙3-392
写1冊 美濃 仮和
- 陸奥国之内領知郷村高辻帳 天保9年(1838) 乙3-393
写1冊 美濃 仮和
- 陸奥国之内領知郷村高辻帳 慶応4年(1868) 乙3-394
写1冊 美濃 仮和
- 陸奥国之内領知郷村高辻帳 明治元年(1868) 乙3-395
写1冊 美濃 仮和
註：明治元年東京江御登セニ相成候御扣之写
- 陸奥国之内管轄郷村高辻帳 明治2年(1869) 乙3-397
写1冊 美濃 仮和
- 陸奥国之内領知郷村高辻帳(是迄書出候高辻帳表ヨリ分裂仕候)
明治2(1869)写1冊 美濃 仮和 乙3-396
- 註：津軽承昭公の花押及印あり
- 陸奥国津軽郡之内郷村高帳 明治3年(1870) 乙4-422
写21冊 半紙 仮和
- 古田村之内御高帳無之村高帳 乙5-450
写1冊 半紙 仮和
- 郷村御高帳之外新田村高帳 乙5-451
写1冊 半紙 仮和
- 陸奥国津軽郷村高辻帳(荒地書入) 乙3-391
写1冊 美濃 仮和
- 陸奥国津軽郡郷村牒 乙5-454
写1冊 半紙 和
- 郷村高辻帳 乙6-455
写4冊 半紙 仮和
- 〈黒石領郷村高〉
- 十郎左衛門様御領分ニ罷成小知行高之帳 丙3-897
明暦3(1657)写1冊 美濃 仮和
註：十郎左衛門は津軽信英 第一代黒石藩主
- 黒石平内巳年郷帳 元禄2年 乙3-414
元禄2(1689)写1冊 半紙倍 仮和
- 陸奥国津軽郡黒石領之内津軽伊織上知郷村高帳 乙3-411
元禄2(1689)
写1冊 美濃 仮和
註：津軽伊織(信俗)は黒石の分家 嗣子なく領知召上げらる
- 陸奥国津軽郡黒石領之内津軽伊織上知郷村高帳 乙3-412
元禄2年(1689)
写1冊 美濃 仮和
- 陸奥国津軽郡黒石領之内津軽伊織上知郷村高帳 乙3-413
元禄2年(1689)
元禄3(1690)写1冊 半紙倍 和
- 津軽伊織上知奥州津軽之内高帳 元禄3年(1690)
(小屋敷村 飛内村 馬場尻村 下目内沢村) 乙3-419
写1冊 半紙倍 仮和
- 陸奥国津軽郡田舎庄下目内沢村高帳(津軽伊織上知)
元禄3年 乙6-477
元禄3(1690)写1冊 半紙倍 和
- 陸奥国津軽郡田舎庄馬場尻村高帳(津軽伊織上知)
元禄3年 乙6-478
元禄3(1690)写1冊 半紙倍 和
- 陸奥国津軽郡田舎庄飛内村高帳(津軽伊織上知)
元禄3年 乙6-479
元禄3(1690)写1冊 半紙倍 和
- 陸奥国津軽郡田舎庄小屋敷村高帳(津軽伊織上知)
元禄3年 乙6-480
元禄3(1690)写1冊 半紙倍 和
- 陸奥国津軽郡田舎庄下目内沢村新田水帳(津軽伊織上知)
元禄3年 乙6-481
元禄3(1690)写1冊 半紙倍 和
- 陸奥国津軽郡田舎庄馬場尻村新田水帳(津軽伊織上知)
元禄3年 乙6-482
元禄3(1690)写1冊 半紙倍 和
- 陸奥国津軽郡田舎庄飛内村新田水帳(津軽伊織上知)

元禄3年 元禄3(1690)写 1冊 半紙倍 和	乙 6-483	黒石領郷村帳 享保10年(1725) 写 1冊 半紙 和	乙 3-402	写 1冊 横長 仮和 註：黒石領郷村帳に関する工藤嘉左衛門藤田形右衛門 奈良岡市左衛門の覚書
陸奥国津軽郡田舎庄小屋敷村新田水帳(津軽伊織上知) 元禄3年 元禄3(1690)写 1冊 半紙倍 仮和	乙 6-484	黒石領郷村帳 享保10年(1725) 写 1冊 半紙 和	乙 3-403	内目録三ヶ条書 丙 17-1234 写 1束(3通) 註：黒石領郷村帳に関する書類目録
黒石平内戊年郷帳 元禄7年 元禄7(1694)写 1冊 半紙倍 仮和	乙 3-415	郷村高辻帳写(津軽左近知行) 明和3年(1766) 天明7(1787)写 1冊 半紙倍 仮和 乙 3-419 乙 註：津軽左近(著高)は第五代黒石藩主		鳴海孫兵衛口上書 丙 17-1233 写 1枚 14×53 一枚物 註：公儀へ差出す黒石領郷村高辻帳の件につき大石庄司 宛のもの
奥州津軽郡之内高帳 元禄7年(1694)(小屋敷村 飛 内村 下目内沢村 馬場尻村) 写 1冊 半紙倍 仮和	乙 3-418	黒石高辻郷村帳 乙 3-405 文化4(1807)写 5冊(合本1冊)半紙 仮和		郷材帳写(津軽黒石領) 乙 5-444 写 1冊 半紙 仮和
津軽采女代知陸奥国津軽郡之内郷村高帳 元禄11年(1698) 写 1冊 半紙倍 仮和 註：津軽采女(政兇)は第三代黒石藩主	乙 3-416	陸奥国津軽郡盤城国伊達郡之内郷村高辻帳(黒石領) 明治2年 乙 6-463 明治2(1869)写 1冊 美濃 和		黒石領郷村帳 乙 3-401 写 1冊 半紙 仮和
津軽采女代知陸奥国津軽郡之内郷村高帳 元禄11年(1698) 写 1冊 半紙倍 仮和	乙 3-417	陸奥国津軽郡盤城国伊達郡之内黒石郷村高辻帳 乙 6-461 明治2年 明治2(1869)写 1冊 半紙 和		御高辻ニ御座候黒石領村々写 乙 5-445 写 1冊 半紙 仮和
陸奥国伊達郡之内郷村高帳写(津軽采女代知秋山村) 元禄11年(1698) 写 1冊 半紙 和	乙 6-462	陸奥国盤城国之内郷村高辻帳(黒石領)(本家越中守ヨリ 是迄書出候高辻帳ヨリ分裂仕候) 明治2年 乙 6-464 明治2(1869)写 1冊 美濃 和		御高辻帳ニ御座候黒石領村々写 乙 3-404 写 1冊 半紙 和
郷村高辻帳写(津軽采女知行) 正徳2年(1712) 写 1冊 半紙 仮和	乙 5-443	黒石領高辻帳(是迄御書出ニ相成候御高辻表ヨリ分裂仕候) 明治2(1869)写 1冊 半紙 和 乙 3-410		〈物成 諸役銀 其他〉
郷村高辻帳写(津軽采女知行) 正徳2年(1712) 写 1冊 半紙倍 仮和	乙 3-418 乙	御高辻分裂一件留 明治2年 乙 5-449 明治2(1969)写 1冊 半紙 仮和		諸役銀定・万値段物定 延宝3年 丙 4-922 延宝3(1675)写 1冊 美濃 仮和 註：勘定所備付の元帳
		郷村高辻帳写(津軽黒石領) 写 1冊 半紙 仮和	乙 5-446	破ヶ関併浦々肴物出御役定(外題：碓ヶ関併浦々万出御役 定) 延宝6年 丙 4-917 延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和 註：勘定所備付の元帳
		郷村之儀ニ付覚	丙 17-1235	

大組頭支配七組分御役人足出帳 延宝7年 丙 3-891
 延宝7(1679)写 1冊 仮和
 註:弘前中7組の役人足割当の元帳 附天和3年(1683)の加筆

諸事江戸ニ而覚帳 延宝9年(1681) 三上宗兵衛
 写 1冊 半紙 仮和 丙 6-978
 註:延宝7年~同8年間の勘定方の覚書

津軽伊織上ヶ地御取ヶ併小役米銀窺帳 元禄3年
 元禄3(1690)写 1冊 美濃 仮和 乙 18-854
 註:小屋敷村外3ヶ村の取箇及小役米銀につき津軽越中守家中から永田作太夫宛伺の覚

津軽伊織上地小屋敷村田畑屋敷物成帳 元禄3年
 元禄3(1690)写 1冊 半紙倍 仮和 乙 16-785

津軽伊織上地下目内沢村田畑屋敷物成帳 元禄3年
 元禄3(1690)写 1冊 半紙倍 仮和 乙 16-784

津軽伊織上地飛内村田畑屋敷物成帳 元禄3年
 元禄3(1690)写 1冊 半紙倍 仮和 乙 16-783

津軽伊織上地馬場尻村田畑屋敷物成帳 元禄3年
 元禄3(1690)写 1冊 半紙倍 仮和 乙 16-786

津軽伊織上知御公儀江書上不申田屋敷物成帳 元禄3年
 元禄3(1690)写 1冊 美濃 仮和 乙 18-860
 註:津軽采女家来より津軽越中守家中への差出書

津軽伊織上知御公儀江差上候帳面書載不申分 元禄3年
 元禄3(1690)写 1冊 美濃 仮和 乙 18-861
 註:津軽采女家来より津軽越中守家中への差出書

午ノ年御物成併立木代夫錢御勘定張(御預所) 元禄4年
 元禄4(1691)写 1冊 半紙 仮和 乙 16-777
 註:津軽越中守御預所馬場尻村年貢皆済の庄屋仁兵衛等の届

奥州津軽郡西御物成金納窺書 乙 16-780
 元禄6,7(1693~4)写 1冊 美濃 仮和
 註:元禄6年津軽越中守御預所4ヶ村の年貢金受取につき拓植伝兵衛の証書一件

陸奥国津軽郡之内小屋敷村下目内沢村飛内村馬場尻村御成ヶ郷帳 元禄6,7,9,10年 乙 16-792
 元禄6~10(1693~7)写 4冊 美濃 仮和
 註:津軽伊織上知にて津軽越中守御預所4ヶ村の年貢割付

陸奥国津軽郡村々高帳(享保九年下野国鬼怒川渡良瀬川御普請料) 乙 5-453
 享保13(1728)写 1冊 半紙 仮和

享保九辰年下野国鬼怒川渡良瀬川通御普請料高役金取立村々高書出候様被仰付候儀ニ付相改候留書 黒石領共 乙 7-502
 享保13(1728)写 3冊 半紙 仮和

弘前町惣屋舗改大帳 宝暦6年 12巻目1巻 乙 2-378
 宝暦6(1756)写 13冊 半紙倍 仮和

宝暦八年より寛政十年迄歩通御差引方留帳 丙 3-887
 天保6(1835)写 1冊 美濃 仮和
 註:宝暦8年~寛政10年(1758~1798)間の給禄の差引歩合

覚 丙 2-881
 写 1冊 半紙倍 仮和
 註:宝暦11年~明和6年(1761~1769)間の御蔵収納米の取扱について

覚 丙 2-880
 写 1冊 半紙倍 仮和
 註:宝暦年間の御蔵収納米の取扱について

家業御役帳(宝暦年中より)御印方 丙 3-888
 写 1冊 美濃 仮和
 註:宝暦年間の諸家業役銭の定

御家中知行御蔵入四ツ成渡被仰付候ニ付江戸上方御家中渡方共右御用一件調帳 安永3年 丙 4-923
 安永3(1774)写 1冊 美濃 仮和
 註:知行御蔵入四ツ成渡被仰付候御書付及相添候御帳面御切米段取割合等渡方諸段取

安永七戌年より天明二寅年迄御書上ニ相成候村々江入混候式拾四ヶ村五ヶ年物成高併平均壺ヶ年分調帳 乙 16-791
 天明5(1785)写 1冊 美濃 仮和

天明七未年より去亥年迄御書上ニ相成候村々江入混候式拾四ヶ村五ヶ年物成高併平均壺ヶ年調帳 乙 16-789
 寛政5(1793)写 2冊 美濃 仮和

天明七未年より去亥年迄式拾式ヶ村五ヶ年物成高併平均壺ヶ年分調帳 乙 16-787
 寛政5(1793)写 2冊 美濃 仮和

田畑物成高調帳 乙 16-779
 天明8(1788)写 1冊 美濃 仮和
 註:天明8年最勝院及同寺庵の田畑高反畝物成高調

地広一件一紙拾 寛政4年 丙 5-934
 寛政4(1792)写 1冊 半紙 仮和

常州平瀨湊石垣御普請ニ付御高調 寛政10年 乙 7-516

写 1冊 半紙 仮和		文久3 (1863) 写 3冊 半紙 仮和
朝鮮人来聘二付諸書付留一件 文化10年 御勘定所地方 文化10 (1813) 写 3冊 半紙 仮和 註：朝前人来聘に付御高役御国役金割合一件書類	乙 7-497	壹紙蔵寄帳併増銭本割帳増銭本割差引帳 (文久二戌御収納同三亥駄下) 文久3 (1863) 写 3冊 半紙 仮和
所々湊出入御役帳 文政13年 文政13 (1830) 写 1冊 半紙半 仮和	甲 8-225	増銭仮割帳 (文久三亥御収納同四子駄下) 文久3 (1863) 写 3冊 半紙 仮和
入物出物御役銭覚 写 (文化頃) 1冊 横小 仮和	甲 7-166	在方免定町方免定時鐘茂合吟味仕方書 文久3 (1863) 写 1冊 半紙 仮和
〔高岡〕御祝儀併御寄進田御物成金御滞併上納共取調帳 文政7年ヨリ天保12年マデ (1824～1841) 天保13 (1842) 写 1冊 半紙 仮和	甲 12-348	人足地子銀出高及時鐘上納御定 写 1冊 美濃 仮和
寺社〔領御蔵入〕一件 写 (天保年間) 1冊 半紙 仮和 註：天保5年 (1834) に寺社領御蔵入となり同9年に地元御返となる	甲 11-334	当丑年御収納米一紙目録 写 1枚 一枚物
大都調 写 1冊 美濃半 仮和 註：藩財政の大略調 天保6年 (1835) ?	甲 9-289	当寅年御収納米一紙目録 写 1枚 一枚物
御省略書付留 天保13 (1842) 写 1冊 半紙 仮和 註：天保10年 (1839) より5年間儉約のため諸節約方	乙 11-618	当寅年御収納米惣括之覚 写 1枚 25x68 一枚物
毛内竹内直納一件 天保11 (1840) 写 1冊 半紙 仮和 註：天明の凶作後毛内有右衛門及竹内源太夫による藤崎組の廢田開發及天保年間毛内平格竹内又市にかかる直納被仰付の一件書類	丙 10-1057	当午年御収納米一紙目録 写 1枚 一枚物
諸湊出入品問屋庭銭口銭取立帳之覚 天保13年甲 8-223 天保13 (1842) 写 1冊 半紙半 仮和		諸湊併御関所出入御役増減調 写 1冊 半紙 仮和
年々御収納一紙目録留 弘化2年より 地方 丙 6-981 写 1冊 半紙 仮和 註：弘化2年～明治元年 (1845～1868) 間の調		高岡御物成金上納取扱留一件 地方 写 1冊 半紙 仮和
御軍用金併茂合出銀時鐘茂合小普請金御国江戸知行物成御家中江戸上方往反併詰合常府御国詰合御扶持菜金其外諸渡共往古より以来御定大都調 弘化4 (1847) 写 1冊 半紙 仮和	丙 6-966	免定有之候得共御高辻帳表二無之村々六ヶ年調より差除候分 丙 6-982
高岡御物成金併御最花金共出人惣括調 安政4年 安政4 (1857) 写 1冊 半紙 仮和	甲 12-347	
一紙蔵寄帳併増銭本割帳増銭本割差引帳 (安政4巳御収納同五午駄下) 安政6 (1859) 写 3冊 半紙 仮和	乙 10-601	
一紙蔵寄帳併増銭本割帳増銭本割差引帳 (安政三年御収納同六未駄下) 安政7 (1860) 写 3冊 半紙 仮和	乙 10-604	
一紙蔵寄帳併増銭本割帳増銭本割差引帳 (安政六未御収納万延元申駄下) 万延元 (1860) 写 3冊 半紙 仮和	乙 10-598	
壹紙蔵寄帳併増銭本割帳増銭本割差引帳 (万延元申御収納文久元酉駄下) 文久2 (1862) 写 3冊 半紙 仮和	乙 10-588	
壹紙蔵寄帳併増銭本割帳増銭本割差引帳 (文久元酉御収納同二戌駄下)	乙 10-592	

- 写 1冊 半紙 仮和
註：子年～巳年（元治元年～明治2年？）間の調
- 大宮御所新規御造立ニ付御入用御国役金割合上納一件併高帳
慶応4年 乙 7-500
慶応4（1868）写 2冊 半紙 仮和
- 松前西蝦夷地被下地所運上金高帳 明治元年（1868）
写 1冊 美濃 仮和 丙 11-1073
- 軍資金割合帳 明治元年 勘定奉行 丙 6-986
明治元（1868）写 1冊 半紙 仮和
- 領知租税録（津軽少将併津軽式部少輔領知） 乙 10-613
明治2（1869）写 1冊 美濃 仮和
註：弘前藩より公儀への報告
- 時鐘茂合調帳 明治3年 惣名主 丙 5-961
明治3（1870）写 1冊 半紙 仮和
註：弘前町組別役銭高及軒数
- 陸軍費調帳 丙 6-985
明治3（1870）写 1冊 半紙 仮和
註：明治3年陸軍関係諸費
- 尾崎組原田村畑方道下成調書上帳 明治4年 乙 16-778
明治4（1871）写 1冊 半紙 仮和
註：庄屋伝六の書上
- 黒石分割高下調 明治4年 丙 6-979
明治4（1871）写 1冊 半紙 仮和
註：元治元年～明治2年（1864～1869）間黒石領村別物成米調
- 町中家数調帳 明治4年 惣庄屋 乙 8-553
- 明治4（1871）写 1冊 半紙 仮和
- 各所倉稟計下夫米村々調 丙 10-1049
明治4（1871）写 1冊 半紙 仮和
- 黒石打出米納方之覚 宝永5年 地方 乙 16-799
写 1冊 半紙倍 仮和
註：宝永5年～天保14年（1708～1843）間の黒石打出米銀納入の覚書
- 黒石打出米一件 弘化2年 地方 乙 16-800
写 1冊 半紙倍 仮和
註：弘化元年～明治2年（1844～1869）間の黒石打出米銀納入の覚書
- 351 統計
- 政要宝典 甲 5-74
写（寛政頃）7冊（合本1冊）半紙 仮和
内容：古今人数異同 古今牛馬 屋宇数 神仏祠堂 村数 里数 田圃 古今兵数異同 納払（安永8年）御米賦併金錢賦仮積調（寛政5年）弘前諸士 九浜士 農民 諸職諸家業 金銀銅鉛山 其他
- 藩民戸口業斑牛馬船総括（弘前在方九浦人別戸数仕分之覚）
寛政12年（1800） 甲 6-110
写 1冊 半紙 仮和
- 御郡内人別戸数調惣括帳 甲 7-174
天保7年頃（1836）
写 1冊 横小 仮和
- 郷村高戸数人口租税書例 乙 10-610
明治2（1869）写 1冊 半紙 和
- 藩中戸数人口書様式 明治2年 丙 8-1011
明治2（1869）写 1冊 半紙 仮和
註：戸数人口士卒族乗馬疋調査報告の藩知事より按察府への報告様式
- 〔弘前藩〕郷村高戸数人口租税書 明治2年 乙 10-607
明治2（1869）写 3冊 半紙 仮和
註：弘前藩知事より按察府への報告
- 覚秘事 明治3年 甲 7-178
明治3（1870）写 1冊 横小 和
内容：支配地総高雑税調 職員調 藩士兵卒員数 社寺 禄扶持 家禄調 社寺戸口 士卒族適宜減禄調出納総括
- 御領内総人別併戸数惣高調 明治3年頃（1870）
写 1冊 横小 仮和 甲 7-173
- 西東海辺通村順口戸数調 甲 8-238
写 1冊 横長 仮和
- 385 祭礼 年中行事
- 御具足餅御祝儀御規式 元禄14年 甲 4-63
元禄14（1701）写 1冊 美濃 仮和
- 御謡初之御規式 元禄14年 甲 4-62
元禄14（1701）写 1冊 美濃 仮和
- 年中御祝式控帳 小寺新助（清勝）著 甲 7-187
文政10（1827）写 1冊 横小 仮和
- 年頭御規式中心得 甲 6-144
写 1冊 半紙 仮和
- 御礼古格（正月） 甲 8-269

写 1冊 半紙半 仮和					
御在国諸規式	甲 5-84	若殿様鑑召初之御式 文化 12 年 文化 12 (1815) 写 横長 仮和	甲 7-156	387 礼儀作法 社交	
写 1冊 半紙 仮和 内容：御煤取 儺名 大晦日 正月 御謡初 御具足 御祝		寛宝 (保) 元年九月七日御駕入之節御客付 寛保元 (1741) 写 1帖 小 折本 註：御姫様 9月 21 日松平大蔵少輔へ御輿入の節	甲 7-190	屋形様御不快就御快然為御祝儀上々様御進物併ニ御料理被 進候事 正徳 5 年 正徳 5 (1715) 写 1冊 横長 仮和	甲 7-159
◇				松前若狭守様より御使者参候節儀式帳 寛政 10 (1798) 写 1冊 半紙 仮和	丙 11-1063
相定御祝儀万御入用定 下 延宝 6 年 延宝 6 (1678) 写 1冊 美濃 仮和 註：年中行事に於ける祝物諸品入用定 勘定所備元帳	丙 4-913	御婚礼被為済候節為御祝儀御家中差上物之覚 宝暦 11 年 (1761) 写 1冊 半紙 仮和	甲 6-133	御献上一式帳 文化 3 年 御公務方 文化 3 (1806) 写 1冊 半紙倍 仮和 註：文化 3 年幕府への献上品控 文久年間まで追記	丙 3-894
御台所方々御酒渡方定・方々御肴渡方定 延宝 6 (1678) 写 1冊 美濃 仮和 註：年中祝日に於ける御酒御肴の渡方の定 延宝6年勘 定所備付の元帳	丙 4-911	御結納御行列 宝暦 11 年 宝暦 11 (1761) 写 1冊 横小 仮和	甲 7-179	御上京御行列之写 元治元 (1864) 写 1冊 横小 仮和 註：元治元年 12 月 23 日御発駕	甲 7-198
御町奉行より所々酒渡方定・浦々酒渡方定 延宝 6 (1678) 写 1冊 美濃 仮和 註：年中祝日に於ける御酒渡方の定 延宝6年勘定所備 付の元帳	丙 4-912	御婚礼済為御使者河野六郎殿御登京御進物目録被下方併諸 渡金銭請払勘定帳 写 1冊 半紙 仮和 註：明治 2 年 (1869) 津軽承昭の婚礼について 附明 治 3 年度大阪御屋敷用金銭受払勘定総括	丙 8-1018	御発駕帳 写 1冊 半紙半	甲 8-261
所々御門松御入用定 延宝 6 年 延宝 6 (1678) 写 1冊 美濃 仮和 註：勘定所備付の元帳	丙 4-909	御婚姻之覚 写 1冊 21 × 56 仮和	乙 18-851	御着城御使者勤方之覚 (御国使者勤方之覚) 写 1冊 横小 仮和 註：江戸城に於ける御国使者の勤方	甲 7-192
御松飾御定帳 諸渡方 天保 9 (1838) 写 1冊 美濃 仮和	丙 4-924	◇		着服之覚 写 (天保頃) 1冊 半紙半	甲 8-218
御松飾帳 文久元年 勘定方 文久元年 (1861) 写 1冊 半紙 仮和 註：函館陣屋に於ける松飾の定	丙 4-925	戒香院様御法会 天明 4 年 写 1帖 小 折本 戒香院：津軽信寧	甲 7-169	座敷飾 写 1帖 小 折本	甲 7-180
386 冠婚葬祭		御社参御仏参之節着服之覚 文化 15 (1818) 写 1冊 半紙半 仮和	甲 8-271	390 軍事 (軍役)	
		箱館千代ヶ台御陣屋詰足軽のもの病死葬式一件 安政 3 年 (1856) 箱館詰勘定方 写 1冊 半紙 仮和	丙 13-1125	古今戦略考 写 1冊 美濃 和 (貴田旧蔵本)	甲 4-52

- 註：神武朝より大阪落城まで合戦を簡略に記す
- 古戦短歌他四種 山鹿素行（高祐）著 甲 6-112
天保12・弘化3（1841,1846）写（山鹿高幸）1冊
半紙 仮和
内容：古戦短歌（山鹿素行嗣子高基へ授けしもの）衣
川百首軍歌（源義経）剣術師教集（山鹿高美）剣術書
素行先生賛文併和文
- 法令 丙 6-974
写 1冊 半紙 仮和
註：戦陣において心得べき定
- 御領内出張手順調 丙 8-1015
写 1冊 半紙 仮和
註：出陣の際の心得書
- 諸組御吉兆併星場稽古野稽古諸色渡御定帳 宝暦10年
宝暦10（1760）写 1冊 横長 仮和 甲 7-162
- 御備立内習留帳 文化15年 甲 6-113
文化15（1818）写 1冊 半紙 仮和
- 御備立内々習留帳 甲 4-65
写 1冊 半紙 仮和
- 月々御備立内習一件 嘉永7年より 丙 8-1035
写 1冊 半紙 仮和
註：嘉永7年～文久2年（1854～1862）頃迄松前非常
三手の演習一件その他
- ◇
- 御旗本御武器調 丙 7-1006
写 1冊 半紙 仮和
- 御旗本附御馬廻備御手廻備御武器調 丙 7-1003
半 1冊 半紙 仮和
- 足軽忝小隊御人数調併御武器調 乙 9-567
写 2冊 半紙 仮和
- 忝小隊御武器調 乙 9-569
写 1冊 半紙 仮和
- 諸浦々御武具調 丙 17-1224
写 1枚 一枚物
註：青森鯨ヶ沢深浦碇ヶ関其他の町奉行番所の武具調
- 御武器根帳 坤（大小砲之部）松前方 丙 16-1173
写 1冊 半紙 仮和
註：慶応4年（1868）頃の調
- ◇
- 武教本論 山鹿素行（高祐）著 甲 5-81
明和8（1771）写（伊東主税）1冊 半紙 和（貴田旧
蔵本）
- 御当家御軍役相驗書 甲 6-124
享保4（1719）写 1冊 半紙 仮和
- 御当家軍役相驗書（後半欠） 甲 6-123
写 1冊 半紙 仮和
- 文化御軍役 甲 5-87
慶応4（1867）写（藤田貞元）3冊 半紙 和
註：文化10年（1813）新編集せるもの
- 津軽藩制 甲 4-33
- 明治写（貴田稲城）1冊 半紙 仮和
内容：軍役人数積併小屋割 軍役御扶持被下候覚 軍器
人附 旗本備相驗 御手廻御馬廻之頭奉行惣驗 御手廻
御馬廻組之驗 江戸組備之驗 城付之惣驗
- 街軍役之写 甲 7-157
写 1冊 半紙（横）和
- 秘事記 甲 8-266
写 1冊 半紙半 和
内容：御手廻備 御馬廻備 小屋間数之覚 古来御軍役
之覚 所々脇道番人 高照宮御遺鑑拔書 御日記方年代
記拔書（寛政元年～文化12年）
- 軍術秘書 甲 9-280
写 1冊 美濃半 和（貴田旧蔵本）
- 足軽武功 甲 6-147
写 1冊 半紙 和（貴田旧蔵本）
- 令申秘録 甲 9-291
写 1冊 美濃半 和（貴田旧蔵本）
- 物頭一手二百人詰戦法 丙 3-883
写 1冊 半紙 仮和
- 三拾騎陰陽戦法 甲 6-119
写 1冊 半紙 仮和

400 自然科学

419 和漢算法

度量分数 乳井貢著 甲 6-115
 安政 4 (1857) 写 1 冊 半紙 和
 註：乳井貢全集に収録されたものとは後半異なる内容をもつ異本

食貨制 (外題：乳氏食貨算法) 乳井貢著 甲 6-146
 文化 2 (1805) 写 1 冊 半紙 仮和

応分志 下巻 乳井貢著 甲 6-148
 写 1 冊 半紙 仮和

500 工学

517 河川工学

十三湖水戸口穿替一件 明治 2 年 丙 5-956
 会計局租税方
 明治 2 (1869) 写 1 冊 半紙 仮和

526 建築 (城廓 天主閣)

覚 丙 2-876
 写 1 冊 半紙 仮和
 註：建築費用に関する宣言

弘前城本丸殿中図 丙 17-1195
 明治 15 (1882) 写 (貴田稲城) 半紙 仮和

弘前城三之丸御殿図 丙 17-1196
 明治 15 (1882) 写 (貴田稲城) 1 鋪 畳物

551 造船

君沢形船製造図式 丙 17-1248
 写 3 鋪 畳物

559 築城

城取之根源 甲 9-281
 写 1 冊 美濃半 和 (貴田旧蔵本)

古老秘伝集 藤田貞元著 甲 5-93
 明治 3 (1870) 写 1 冊 半紙 仮和
 註：弘前城郭と変わる所を記す

弘前城郭所々蔵併屋敷付諸色置所之覚 甲 7-155

写 1 冊 横長 仮和
 註：元禄 7 年 (1694) ?

596 料理

御献立書 丙 17-1229
 写 1 束 (4 通)

600 産業

609 度量衡

定 丙 17-1244

明暦元（1655）写 1 枚 一枚物
 註：承応 2 年（1653）及明暦元年秤に関する定

覚 寛文 8 年（1668） 丙 17-1245

写 1 枚 一枚物
 註：守随彦太郎秤用うべき 33 ケ国の定

万秤直段付之覚 丙 17-1243

守 1 1 枚 一枚物

610 農業

耕作口伝書 地方 乙 10-614

宝暦 5（1755）写 半紙 和

耕作仕様向之儀 乙 10-611

天保 13（1842）写 1 冊 半紙 仮和
 註：本郷村庄屋平次郎耕作壮方についての申出

611 農業経済（政策 行政 土地制度）

寺社見地は宗教を見よ 知行水帳は伝記知行帳（281）
 郷村高辻帳は地方財政（349）を見よ

地方藩穂集 卷 1 至 13 附落穂粉拾録 東武隠士泰路編

安永 6（1777）写 10 冊 美濃 和 乙 18-840
 註：安永 6 年春木櫓石の写本 附の地方落穂粉拾録は春木櫓石の集録せるもの

◇

寛文中御検見人江被仰付候覚書 地方 丙 5-929

明和 4（1767）写 1 冊 半紙 仮和
 註：明和 4 年検見人心得の論達文写

条々（御新検ニ付被仰出候覚書）貞享 4 年 丙 17-1231

貞享 4（1687）写 1 枚 一枚物
 註：新検帳面出来るによって仰出された郡奉行への心得

条目 丙 6-973

弘化 2（1845）写 1 冊 半紙 仮和
 註：村々を廻り村役及百姓へ申渡すべき郡奉行の条目

慶応四年改御検見仕様向 丙 8-1019

慶応 4（1868）写 1 冊 半紙 仮和

御検見勤方心得大概併村日記 甲 7-194

明治 3（1870）写 1 冊 横小 仮和

検地演説 民事局当務方 丙 5-937

明治 3（1870）写 1 冊 半紙 仮和

検見演説 民事掛 丙 5-939

明治 3（1870）写 1 冊 半紙 仮和

検見対談書 民事局当務方 丙 5-938

明治 3（1870）写 1 冊 半紙 仮和

◇

田舎庄壱野坪村之内独鼻村仕分水帳 享保 11 年

享保 11（1726）写 1 冊 美濃 仮和 乙 15-767

田畑不熟損毛御届一件 寛延 2 年より 乙 16-796

文政 10（1827）写 1 冊 美濃 仮和
 註：寛延 2 年～文政 10 年（1749～1827）間の田畑損毛

につき公儀へ届出の覚書

田畑損毛公儀江御訴申上候留帳 文政 13 年より

写 1 冊 半紙倍 仮和 乙 18-862
 註：文政 13 年～明治 2 年（1830～1869）間天災地変による田畑損毛の書上控

知事支配地田畑損毛調御届帳 明治 2 年 乙 16-781

明治 2（1869）写 1 冊 半紙 仮和
 註：弘前藩知事管下田畑損毛調

鼻和庄轟木村減高反別帳 乙 17-805

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄赤石組目内崎村減高反別帳 乙 17-806

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄岩崎村減高反別帳 乙 17-807

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄広戸村減高反別帳 乙 17-808

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄鬼袋村減高反別帳 乙 17-809

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄岩坂村減高反別帳 乙 17-810

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄種里村減高反別帳 乙 17-811

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄金井沢村減高反別帳 乙 17-812

宝暦 4（1754）写 1 冊 半紙 仮和

鼻和庄田野沢村減高反別帳 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-813	鼻和庄関村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-828	田舎庄桜沢村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-815
鼻和庄姥袋村減高反別帳 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-816	鼻和庄館前村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-829	津軽郡平賀庄田舎庄鼻和庄村々高反別 宝暦5年 御調方 宝暦5(1755)写 1冊 美濃 仮和 註：村々の反別分米を記し 村石をいろは順に配列す	乙 17-838
鼻和庄松神村減高反別帳 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-817	鼻和庄一つ森村減高反別帳 宝暦7年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-830	後鴻組内真部村給地田畑御再検案内古帳 明和9年 明和9(1772)写 1冊 半紙 仮和	乙 9-571
鼻和庄晴山村減高反別帳 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-819	鼻和庄赤石組深浦村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-831	後鴻組内真部村御蔵給地田畑御再検ニ付役人書上帳 明和9年 明和9(1772)写 1冊 半紙 仮和	乙 9-570
鼻和庄漆原村減高反別帳 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-820	鼻和庄加茂村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-832	田方調帳 明和9(1772)写 1冊 半紙 仮和 註：明和9年田畑再検につき庄屋五人組よりの書上帳内 真部の分？	丙 9-1041
鼻和庄風合瀬村減高反別帳 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-821	鼻和庄大間越村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-833	杉山千吉郎知行川欠併田畑荒地田畑成調書上帳 安永3年 安永3(1774)写 1冊 横長 仮和	甲 7-206
鼻和庄月屋村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-822	鼻和庄久田村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-834	御書出之村々荒当毛引残高共調帳(安永七年より天明二年迄) 寛政5(1793)写 1冊 半紙 仮和	丙 6-980
鼻和庄深谷村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-823	鼻和庄松原村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-835	横内組村々田畑村高平均調帳 文化7年 文化7(1810)写 1冊 半紙 仮和 註：対馬園吉油布庄左衛門の書上	乙 12-640
鼻和庄柳田村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-824	鼻和庄小福浦村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-836	貞享御元帳田畑併御預地諸品地相改書上帳 横内組の内 文化9(1812)写 6冊 半紙 仮和	丙 8-1024
鼻和庄大童子村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-825	鼻和庄金沢村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-837		
鼻和庄艦作村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-826	大然村減高反別帳(鼻和庄) 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-818		
鼻和庄日照田村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)写 1冊 半紙 仮和	乙 17-827	田舎庄沢部村減高反別帳 宝暦4年 宝暦4(1754)冊 1冊 半紙 仮和	乙 17-814		

- 広田組村々開発田方御見分帳 文化9(1812) 甲 6-111
 写 1冊 半紙 仮和
- 高杉組御通村々戸数併新古田方調帳 文化9年 甲 8-235
 文化9(1812) 写 1冊 横長 仮和
- 藤代組御通行村々家数古田開発田方高反別帳 文化9年
 文化9(1812) 写 1冊 横長 和 甲 8-236
- 駒越組宮地村畑方諸品減高帳 文政8年 乙 12-634
 文政8(1825) 写 1冊 半紙 仮和
 註：庄屋林次郎の書上
- 御内意覚 文政10年(1827) 甲 6-140
 写 1冊 半紙 仮和
 註：文政10年洪水にて開発方郡奉行新田奉行が新村扱
 方併に翌年開発の手配方等の内意申上の覚
- 見取場反高場流作場高反別調帳 天保6年 乙 17-839
 天保6(1835) 写 1冊 美濃 仮和
- 陸奥国津軽郡平賀庄富田村田畑御檢他水帳 御蔵野帳併案
 内之古帳共 乙 12-630
 写 4冊(合本1冊) 半紙 仮和
- 覚(御坊主小頭御用立方覚併田畑相改覚) 甲 7-214
 写 1冊 横長 仮和
- 当寅年御檢見引之覚 丙 17-1237
 写 1枚 25×54 一枚物
- 組之田畑調(御郡内田畑反別) 甲 7-152
 写 1冊 半紙半 仮和
 内容：大鱈組 尾崎組 大光寺組 猿賀組 田舎館組
 藤崎組 柏木組 常盤組 増館組 浪岡組 赤田組 広
- 田組 広須組 木造組 飯詰組 俵元新田組 金木組
 金木新田組 油川組 後瀧組 浦町組 横内組
- 田畑御買入一件留 明治3年 租税署 乙 12-660
 明治3(1870) 写 3冊 半紙 仮和
- 高杉組村々田方御買入惣括帳 明治3年 乙 12-641
 明治3(1870) 写 19冊(合本1冊) 半紙 仮和
 内容：貝沢村 小島村 鬼沢村 蒔苗村 熊島村 高屋
 村 八幡村 薬師堂村 独狐村 十腰内村 十面沢村
 立石村 高杉村 糠坪村 前坂村 宮館村 中別所村
 折笠村 楢木村
- 利徳組村々御買入田畑調帳 明治3年 乙 12-674
 明治3(1870) 写 13冊 半紙 仮和
 内容：黒滝村 小沢村 湯口村 向外瀬村 富田村 大
 久保村 撫牛子村 津賀野村 悪戸村 下湯口村 原ヶ
 平村 堅田村 清野袋村
- 駒越組村々御買上田方惣括帳 明治3年 乙 12-663
 明治3(1870) 写 11冊(合本1冊) 半紙 仮和
 内容：一町田村 樋口村 杉沢村 国吉村 桜庭村 黒
 土村 二本木村 深山村 兼平村 真土村 五代村
- 駄越組樋口村五右衛門抱田方調帳 明治4年 乙 12-639
 明治4(1871) 写 1冊 半紙 仮和
- 駒越村五右衛門抱田方毛切調帳 明治4年 乙 12-636
 明治4(1871) 写 1冊 半紙 仮和
- 樋口村五右衛門抱田方持分調帳 明治4年 乙 12-638
 明治4(1871) 写 1冊 半紙 仮和
- 樋口村五右衛門抱苗代持分帳 明治4年 乙 12-637
 明治4(1871) 写 1冊 半紙 仮和
- 五右衛門抱田方苗代地持分調帳 明治4年 乙 12-635
 明治4(1871) 写 1冊 半紙 仮和
- 増館官所支配横苞松倉両村生荒田畑見取地併銀納地共取調
 書上帳 明治3年 甲 7-201
 明治3(1870) 写 1冊 横長 仮和
- 祠堂田畑繰替併別宅外屋敷地一件 明治3年 田畑調方
 明治3(1870) 写 2冊 半紙 仮和 乙 8-520
- 覚 丙 2-878
 写 1冊 半紙 仮和
 註：明治3年(1870) 田畑買上るとき地主からの嘆願
 書その他
- 諸願書綴 明治3年(1870) 丙 9-1040
 写 1冊 半紙 仮和
 註：田畑買上につき地主よりの諸願綴
- 持抱之内分地調書上帳 丙 8-1022
 明治3(1870) 写 1冊 半紙 仮和
 註：中里村井沼正兵衛分大庄屋へ書上
- 尾崎組沖館村畑方御用地御道下御檢地願案内帳
 明治4(1871) 写 1冊 半紙 仮和 丙 8-1023
 註：沖館村庄屋長吉の書上
- 御郡中田畑献田併御買上调帳 明治4年 甲 7-205
 明治5(1872) 写 1冊 半紙半 仮和
- 御用留 乙 11-628
 昭治5(1872) 写 1冊 半紙 仮和
 註：明治4年5年田畑調方へ諸願書綴

〈越後高田検地〉

- 越後国高田領御検地御用之事申来候儀併御人数役付候覚
天和2年(1682) 乙11-621
弘化4(1847)写1冊 半紙 仮和
- 越後高田ニテ検地手分之覚 甲7-210
天和2年(1682)
弘化4(1847)写1冊 横長 仮和
- 越後御検地方役付併諸組足輕組分 甲7-211
弘化4(1847)写1冊 横長 仮和
- 越後御検地之節覚帳 天和2年(1682) 甲7-212
文化4(1817)写1冊(合本) 横長 仮和
内容:火消道具留帳 役付之覚 諸事帳面書物覚 御人数寺々御借上宿割帳 江戸ヨリ越後高田行御検地諸道具覚帳
- 京都併越後御用状留帳 天和2年(1682) 乙11-627
写(弘化4?)1冊 半紙 仮和
註:津軽玄蕃津軽大学が京都併越後へ送った用向書状留
- [越後国]刈羽郡御検地帳 天和2年(1682)(小池新田
清水谷村田 清水谷村除地 清水谷村屋敷併畑)
弘化4(1847)写4冊 半紙 仮和 乙7-509~521
- 越後国刈羽郡御検地水帳 天和3年(1683)(小島村
田屋村 吉井村 清水谷村) 乙7-507~508
弘化4(1847)写4冊 半紙 仮和
- 越後国苅羽郡村々石盛帳 天和3年(1683) 乙7-517
写1冊 半紙 仮和
- 田谷村之内四拾三石七斗七升式合新田帳 天和2年

- 弘化4(1847)写1冊 半紙 仮和 乙13-695
註:越後国刈羽郡田屋村?
- 田谷村除地御検地之帳 天和2年(1682) 乙13-694
弘化4(1847)写1冊 半紙 仮和
註:越後国刈羽郡田屋村?
- 枇杷島村新田野帳(越後国刈羽郡) 乙9-558
弘化4(1847)写1冊 半紙 和
註:天和2年(1682)検地野帳よりの写
- 枇杷島村屋舗帳(越後国刈羽郡) 乙9-557
弘化4(1847)写1冊 半紙 和
註:天和2年(1682)越後国検地帳よりの写
- 塚ノ山村畑方御検地之帳(越後国三島郡)天和2年
天和2(1682)写1冊 美濃 仮和 乙15-770
- 塚ノ山村屋敷御検地之帳(越後国三島郡)天和2年
天和2(1682)写1冊 美濃 仮和 乙15-769
- 塚ノ山村之内卯ノ新田御検地之帳(越後国三島郡)
天和2年 乙15-768
天和2(1682)写1冊 美濃 仮和
- 相田村山林池堤之帳 天和2年 丙3-892
天和2(1682)写1冊 美濃 仮和
註:越後国検地の野帳
- 越後国三島郡御検他村高帳 天和3年(1683)
写3冊 美濃 仮和 乙7-513~515
- 越後国三島郡村々石盛帳 天和3年 乙7-518
天和3(1683)写1冊 美濃 仮和

- 常楽寺村除田併畑屋敷帳(越後国三島郡)天和2年
天和2(1682)写1冊 半紙 仮和 乙15-765
- 越後国三島郡常楽寺村御検地水帳奥 天和3年 乙15-764
天和3(1683)写1冊 半紙 仮和
- 越後国三島郡道半村御検地帳 天和2年 乙15-755
天和2(1682)写9冊 美濃 仮和
- 五反田村田方御検地之帳(越後国三島郡)天和2年
天和2(1682)写5冊 半紙 仮和 乙15-749
- 越後国三島郡五反田村御検地水帳奥 天和3年 乙15-754
天和3(1683)写1冊 美濃 仮和
- 越後国三島郡藤巻村御検地水帳奥 天和3年 乙15-766
天和3(1683)写1冊 美濃 仮和
- 越後国三島郡片貝村御検地水帳 天和3年 乙7-519
天和3(1683)写1冊 美濃 和

611.3 米穀(備荒 米価 倉庫)

- 阪陽糶通検録 甲3-27
写1冊 半紙 仮和
註:諸国より大阪蔵屋敷へ登る米穀の内実俵石数及其その減少高を記す
- 覚 丙2-880
写1冊 半紙倍 仮和
註:宝暦年間の御蔵収納米の取扱について
- 覚 丙2-881
写1冊 半紙倍 仮和

- 註：宝暦11年～明和6年（1761～1769）間の御蔵収納米の取扱について
覚 丙 2-877
写 1冊 半紙 仮和
註：享和元年～万延元年（1801～1860）頃までの収納御蔵米取扱についての覚書
- 御囲御貯御備糶引入帳 文化2年 乙 16-798
文化2（1805）写 1冊 美濃 仮和
- 御囲御貯御備糶所々御蔵入高元帳 文化6年 御蔵方 乙 16-797
文化6（1809）写 1冊 美濃 仮和
- 所々御蔵御収納村割定 御蔵方 丙 3-901
文政8（1828）写 1冊 美濃 仮和
註：各蔵ごとに村名寄の帳 明治4年まで補記
- 御備糶御本帳 天保15年 勘定奉行 乙 16-803
天保15（1844）写 1冊 半紙倍 仮和
- 御備糶之儀に付覚 嘉永4年 勘定奉行 乙 16-801
嘉永4（1851）写 1冊 半紙倍 仮和
註：御備糶の定額定について勘定奉行の伺
- 御備糶御本帳 嘉永4年 勘定奉行 乙 16-802
嘉永4（1851）写 1冊 半紙倍 仮和
- 御備糶御本帳 嘉永5年 乙 16-804
嘉永5（1852）写 1冊 半紙倍 仮和
- 五丁目御蔵米出入帳 文久3年 郡所地方 丙 5-951
文久3（1863）写 1冊 半紙 仮和
- 富田御蔵米出入引入帳 文久4年 郡所地方 丙 5-944
文久4（1864）写 1冊 半紙 仮和
- 五丁目御蔵米出入帳 元治元年 郡所地方 丙 5-952
元治元（1864）写 1冊 半紙 仮和
- 富田堅田御蔵糶之内水車にて摺立米受払帳 元治元年 郡所地方 丙 5-945
元治元（1864）写 1冊 半紙 仮和
- 堅田御蔵糶出入帳 元治元年 郡所地方 丙 5-943
元治元（1864）写 1冊 半紙 仮和
- 富田御蔵糶出入帳 元治2年 郡所地方 丙 5-946
元治2（1865）写 1冊 半紙 仮和
- 堅田御蔵糶出入帳 慶応元年 地方 丙 5-947
慶応元（1865）写 1冊 半紙 仮和
- 五丁目御蔵米糶出入帳 慶応2年 郡所地方 丙 5-953
慶応2（1866）写 1冊 半紙 仮和
- 堅田御蔵糶出入帳 慶応2年 郡所地方 丙 5-948
慶応2（1866）写 1冊 半紙 仮和
- 五丁目御蔵米出入帳 慶応3年 郡所地方 丙 5-954
慶応3（1867）写 1冊 半紙 仮和
- 堅田御蔵糶出入帳 慶応3年 郡所地方 丙 5-949
慶応3（1867）写 1冊 半紙 仮和
- 五丁目御蔵米出入帳 慶応4年 地方 丙 5-955
慶応4（1868）写 1冊 半紙 仮和
- 堅田御蔵糶出入帳 慶応4年 郡所地方 丙 5-950
慶応4（1868）写 1冊 半紙 仮和
- 弘前三蔵計り下 明治3年 出納方 丙 6-983
明治3（1870）写 1冊 半紙 仮和
註：弘前東 北 亀甲三御蔵納め管下の村名帳
- 御郡内御蔵斗り下村配 明治3年 出納方 丙 6-984
明治3（1870）写 1冊 半紙 仮和
註：郡中蔵納め管下の村名帳
- 倉廩規定 乙 5-940
明治3（1870）写 1冊 半紙 仮和
註：御収納米に関する定
- 高岡御神領米御買入二付年々一番相場留帳附年々金価銭価共 地方 甲 12-351
写 1冊 半紙 仮和
註：一番相場は宝暦4年～慶応3年（1754～1867）まで 金価銭価は寛文5年～明治2年（1665～1869）まで
- 617 工芸作物**
- 五反田村漆改帳（越後国三島郡） 乙 15-748
天和2（1682）写 1冊 半紙 仮和
- 田谷村漆改野帳 天和2年 乙 13-693
弘化4（1847）写 1冊 半紙 仮和
註：越後国刈羽郡田屋村？
- 630 養蚕**
- 養飼養法記 野元道玄 甲 6-122
明治 写 1冊 半紙 仮和
- 645 家畜**
- 御馬飼料諸色渡定 寛政12年 御公務方 乙 12-692

寛政12(1800)写 1冊 美濃 仮和		註：万延2年～文久3年(1861～1863)間北海道スツ ツ シマコマキ両場所の開発に関する一件		江戸伝馬町ヨリ大坂迄駄賃改 安永5年 乙14-728 安永5(1776)写 1冊 半紙 仮和
駒寄 文化9年(1812) 甲8-217 写 1冊 半紙半 仮和		損益大都調 明治4年 丙5-935 明治4(1871)写 1冊 半紙 仮和 註：明治2年松前鯉場所に投資した損益調		東海道奥州道中白河迄人馬賃銭増覚 寛政11年(1799) 御公務方 乙14-731 写 1冊 美濃 仮和
拍子調息御馬飼料御定帳 安政6年 乙12-687 安政6(1859)写 1冊 半紙 仮和		680 交通		駄賃定 乙14-736 享和3(1803)写 1冊 半紙倍 仮和
御備馬飼料品併諸入用品調帳 昭治3年 乙12-689 明治3(1870)写 1冊 美濃 仮和 註：大津屋九左衛門書上		江戸道中駄賃定之帳 延宝3年(1675) 乙14-732 写 1冊 美濃 仮和		御道中御条目帳 文政12年 甲7-177 文政12(1829)写 1冊 横小 仮和
650 林業		道中貫目定・道中路銀定(道中駄賃貫目定併御賄定) 延宝6(1678)写 1冊 美濃 仮和 丙4-908 註：勘定所備付之元帳		御行列帳 天保13年(1842) 甲7-171 写 1冊 横小 仮和 註：弘前より江戸まで道中里程宿々御本陣等を記す
杣定帳 乙15-776 写 1冊 半紙倍 仮和 註：宝暦11年(1761)から寛政項までの杣関係定書		北国道中駄賃定 天和2年(1682) 乙14-734 写 1冊 半紙倍 仮和		御領分中道程駄賃定 文久4年 諸渡方 乙14-735 文久4(1864)写 1冊 半紙倍 和
陸奥国津軽郡之内山中出材石目高調帳 寛政5年 乙18-853 田中左次馬 乙18-853 寛政5(1793)写 1冊 美濃 仮和 註：天明7年～寛政3年(1787～1791)5年間津軽半島 18ヶ山の出材石数調		江戸伝馬町ヨリ大坂迄駄賃改帳 宝永6年 乙14-727 宝永6(1709)写 1冊 半紙 仮和		津軽藩内駄賃御定帳 甲7-168 写 1冊 横小 仮和
青森県管内旧津軽藩林制要領 鳴海謙六 永沢孫三郎共著 甲6-120 明治24 1冊 半紙 仮和		行程記 下卷(盤城国小田川ヨリ弘前マデ) 乙7-489 享保7(1722)写 1冊 半紙 仮和 註：江戸御屋敷より弘前までの駄賃定併行程 勘定人石 岡彦右衛門足軽目付吉崎幸次衛門の調書 上卷欠		御飛脚増貫目賃銭御用荷物賃併不幸渡割合 乙14-730 写 1冊 半紙 仮和
660 水産業		江戸ヨリ弘前迄道中駄賃御定帳 享保9年 乙14-729 享保9(1724)写 1冊 半紙 仮和		◇
金銭請払場所勘定惣括 丙8-1017 写 1冊 半紙 仮和 註：北海道4ヶ場所の金銭支払惣括		御入部之節笹谷通桑折より山形迄 元文元年 丙6-969 元文元(1736)写 1冊 半紙 仮和 註：駄馬及人夫の賃銭書		廻船請負証文 延享4年 乙18-859 延享4(1747)写 1冊 半紙倍 仮和 註：筑前屋善兵衛ほか1名から勘定奉行へ提出の江戸登 屋船契約書
場所開行一件 丙8-103 写 1冊 半紙 仮和		駄賃運賃御定帳 宝暦9年 乙14-733 宝暦9(1759)写 1冊 美濃 仮和		御廻船請負証文 文政10年 御勝手方 乙18-857

文政10(1827)写 1冊 半紙 仮和
 註：筑前屋喜平外2名より津軽越中守御蔵許津軽屋三平
 ほかへ差出した江戸登雇船契約書の写

御廻船請負証文帳 弘化2年 乙 18-858
 弘化2(1845)写 1冊 美濃 仮和
 註：宝屋彦四郎外2名から弘前役人へ差出した大阪登屈
 船契約書 附積込米内訳

在浦々別段役江演説 租税署 丙 5-941
 明治3(1870)写 1冊 半紙 仮和

700 芸術

773 能 狂言

御楽屋御能器根帳 丙 3-902
 享和4(1804)写 1冊 美濃 仮和

783 武道

武芸御口達 文政9年 甲 8-258
 文政9(1826)写 1冊 半紙半 仮和

900 文学

914 小品

笠原氏近衛家より拜領せし御杯へ鴻池直郷の記せし記文
 写 1枚 21×26 一枚物 丙 17-1221

919 漢詩文

蘭州先生遺稿 5巻 山崎道冲著 伴建尹編 甲 12-356
 弘前 稽古館 文化2(1805)(木活)1冊 半紙 和

東浜紀游・西浜小游紀詩 兼松石居(誠) 甲 6-128
 写 1冊 半紙 仮和